

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLF11S001S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | オーラルコミュニケーション English Oral Communication | 1単位 | 必修 | 演習 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--|
| 学修教育目的 | <p>私たちが英語を通じてコミュニケーションをとるためには、言葉の意味や使い方のルールについて知っていなければならない。また、正しい発音の仕方にも必要となる。この授業では、学生が英語でコミュニケーションを取りたい時に役立つ知識をしっかりと身につけ、スピーキングとリスニングの能力を向上させることを図ると共に日常的な会話ができるようになることを目的とする。</p> | |
| | 英語 英語コミュニケーション 異文化 | 学修教育目標 <p>日常的なトピックについて、学生が英語でコミュニケーションをとる時に必要とされる正確なリスニング能力、並びにスピーキングでの正確な発音や抑揚を身につけると同時に、異文化理解を通じて会話における「倫理性」の向上も計ることを目標とする。</p> |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>各章のテーマに合わせ、語彙を増やすための単語学習、英語の聞き取り、会話練習、基本文法の復習、小文の読解を行う。テキストの英文を自然な発音で声に出して読み、お互いに聴きあい、また英文の仕組みとなる文法を皆で考えながら、内容を把握し考え合う。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>メディカル・イングリッシュやイングリッシュ・リーディングと密接に関連しており、必要な予備知識としては、まずは英語の語彙力となる。</p> |
|---|

教科書

参考書・リザーブドブック

| | |
|--|--|
| <p>書名：Let's Make It Simple 著者名：森田 和子 他 出版社：三修社</p> | <p>書名：看護師たまごの英語 40日間トレーニングキット・ワークブック 基礎編 著者名：菱田 治子 出版社：アルク</p> |
|--|--|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 英語でコミュニケーションをとる時に必要とされる正確なリスニング能力、並びにスピーキングでの正確な発音や抑揚を身につけることができる。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章でわかりやすく説明することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | 40 | | 15 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 10 | 15 | | | | | | 25 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | 10 | | | 5 | | | | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | 5 | | 10 | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| テキストに書かれた英文を読解し、内容に関して英語で説明をすることができ、躊躇することなく英語でコミュニケーションを図ることができる。 | | | | | 英文を音読し、内容を掴むことができる。英語の自然な発音を身につける。簡単な英語を聞き取ることができる。日常の情報を英語で伝えコミュニケーションを図ることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション・授業の進め方や課題がわかるシラバスや資料の配布と説明 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 | 30 |
| 第2回 / | Lesson 1 : My Family -Vocabulary : Family / Relatives Grammar : Adjectives & Nouns 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第3回 / | Lesson 2 : Our Campus Grammar : Preposition 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第4回 / | Lesson 3 : Jobs and Workplaces -Vocabulary : Jobs Grammar : Verb 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第5回 / | Lesson 4 : Everyday Activities -Vocabulary : Everyday Activities Grammar : Verb & Pronoun 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第6回 / | Lesson 5 : Transportation -Vocabulary : Transportation Grammar : Prepositions 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第7回 / | Lesson 6 : Part-time Jobs -Vocabulary : Part-time Jobs Grammar : Numbers 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第8回 / | Lesson 7 : Health & Illness -Vocabulary : Illness / Injury Grammar : WH Questions (1) 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。Lesson 1-7 の総復習を行う。 | 30 |
| 第9回 / | Lesson 8 : Shopping -Vocabulary : Online Shopping / Store / Goods Grammar : WH Questions(2) 小テストの実施 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第10回 / | Lesson 9 : Leisure -Vocabulary & Grammar: Time Expression 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第11回 / | Lesson 10 : College Life -Vocabulary : College Calendar Grammar : Auxiliary Verb 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第12回 / | Lesson 11 : Countries -Vocabulary : Weather Grammar : Comparative 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。 | 30 |
| 第13回 / | Lesson 12 & 13: Taking a Trip (1)・(2) -Vocabulary : Flight & Tickets 授業への取り組み・課題 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。Lesson 8-13 の総復習を行う。 | 30 |
| 第14回 / | Lesson 1~13 のまとめ これまでに学習した Vocabulary や Grammar、英会話を中心に学ぶ 小テストの実施 | 面接授業 演習：「英語を聞き、英語を話す」ことに慣れるために、教員・受講生共に教室内での使用言語を基本的に英語のみとする | (復習) Lesson 1-13 の総復習を行う。 | 30 |

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|-----------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLF31F002S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | イングリッシュ・リーディング English Reading | 1単位 | 選 択 | 演 習 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>SDGs とは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」を理念の下、貧困や不平等・格差、気候変動など地球規模で問題となっている諸課題を解決するために、国際社会が 2016 年から 2030 年までに持続可能でより良い世界を目指して達成すべき 17 の目標である。本授業では、英語を通して、地球規模で進む多様な問題を知り、学び、基礎的な知識を身につけることによって、グローバルな視点に立って、自ら考え行動する力を養い、英語で互いに意見を交換し自分の意見を述べるができる語学力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p> | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|--------|---|--|--|--|--|
| キーワード | 英語 パラグラフ 英文読解のルール 英語コミュニケーション 異文化 | 学修教育目標 | リーディング・スキルの養成。パラグラフ単位の大意をつかみながら、長文全体の読解力を身につける。語彙、発音、文法の基礎を確認しながら英文を読む。 | | | | |
|-------|---|--------|---|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 英文の読解力を養成できるように授業を行います。英文ではパラグラフが文章構成の基本単位であり、それぞれのパラグラフの大意をつかみながら、全文が理解できるように進める。Vocabulary・イディオム・文法・構文などを予習しておくこと。 | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 「メディカル・イングリッシュ」の理解につながります。 Vocabulary・イディオム・文法・構文などの理解を通じて読解力の向上に資する。 | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブドブック |
|---|--------------|
| 書 名：CLIL 英語で考える SDGs 持続可能な開発目標 著者名：笹島 茂 他 出版社：三修社 | なし |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 英文の読解は、あらゆる知識を総動員して内容理解に取り組む積極的な作業であることを理解できる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業に積極的に参加し、必要な内容を理解できるよう取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 質問に対する解答やパラグラフの内容をわかりやすく説明することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 英文の内容・設問などの問題点を明確にして、その解決に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 問題点の解決に向けて、文法・構文などの手順を理解できるよう取り組むことができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--------------------|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | 55 | | | | | | 100 |
| 評価 の 指 標 | 知識に関する評価 | | 30 | 40 | | | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | 5 | 5 | | | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | 5 | 5 | | | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | 5 | | | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| リーディング・Vocabulary・読解力・文法・構文・設問に対する解答など各項目の理解度が80%以上である。 | | | | | 左記の各項目の理解度が70%である。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. シラバスの説明 2. パラグラフ、リーディングスキルの解説 3. 復習テストの範囲と内容の説明 | Unit1の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第2回 / | Unit 1: No Poverty / Zero Hunger 貧困をなくそう・飢餓をゼロに 文法：現在形 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. あまり細かい点にとらわれないで必要な情報をつかむ 3. 設問の答と Advice | Unit2の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第3回 / | Unit 2: Good Health and Well-Being すべての人に健康と福祉を 文法：接続詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. 5文型、文の要素と修飾語をつかむ 3. 設問の答と Advice | Unit 3の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第4回 / | Unit 3: Quality Education 質の高い教育をみんなに 文法：現在進行形 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. 文中でS・Vをつかむと共に品詞を判断し文意を理解する 3. 設問の答と Advice | Unit 4の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第5回 / | Unit 4: Gender Equality / Reduced Inequalities ジェンダー平等を実現しよう・人や国の不平等をなくそう 文法：過去形・過去進行形 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. 設問の答と Advice | Unit 5の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第6回 / | Unit 5: Clean Water and Sanitation 安全な水とトイレを世界中に 文法：助動詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. 設問の答と Advice | Unit 6の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第7回 / | Unit 6: Affordable and Clean Energy エネルギーをみんなにそしてクリーンに 文法：形容詞・副詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. 設問の答と Advice | Unit 7の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと Unit 1~6を復習しておくこと | 30 |
| 第8回 / | Unit 7: Decent Work and Economic Growth 働きがいも経済成長も 文法：分詞 授業への取り組み・課題 小テストの実施 | 面接授業 1. CDを聞いて、リーディング力の向上をはかる 2. 英文を語順通りに理解する習慣をつける 3. 設問の答と Advice | Unit 8の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第9回 / | Unit 8: Industry, Innovation and Infrastructure 産業と技術革新の基礎を作ろう 文法：主語と動詞の一致 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞いて、リーディング力の向上をはかる 2. 英文の中心となる部分を速く正確につかむ 3. 設問の答と Advice | Unit 9の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第10回 / | Unit 9: Sustainable Cities and Communities 住み続けられるまちづくりを 文法：関係代名詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞いて、リーディング力の向上をはかる 2. 主題を含む文はパラグラフの初めにあることを理解する 3. 設問の答と Advice | Unit 10の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第11回 / | Unit10: Responsible Production and Consumption つくる責任、つかう責任 文法：関係副詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. 設問の答と Advice | Unit 11の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第12回 / | Unit 11: Climate Action 気候変動に具体的な対策を 文法：動名詞・不定詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞き、リーディング力の向上をはかる 2. パラグラフ単位に要約、内容的構文的に複雑な場合は直訳する 3. 設問の答と Advice | Unit 12の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと | 30 |
| 第13回 / | Unit 12: Life below Water / Life on Land 海の豊かさを守ろう・陸の豊かさを守ろう 文法：比較 Unit 13: Peace, Justice and Strong Institutions 平和と公正をすべての人に 文法：冠詞 授業への取り組み・課題 | 面接授業 1. CDを聞いて、リーディング力の向上をはかる 2. 1つの文に2つ以上の共通要素があるとき、どちらか1つ残して他は省略できることを理解する 3. 設問の答と Advice | Unit 13&14の英文をCDで聞き、Vocabulary・イディオムの意味・構文などを予習しておくこと Unit 7~14を復習しておくこと | 30 |
| 第14回 / | Unit14: Partnerships for the Goals パートナリシップで目標を達成しよう 文法：直接話法・間接話法 総復習 テストの確認 授業への取り組み・課題 小テストの実施 | 面接授業 1. CDを聞いて、リーディング力の向上をはかる 2. 設問の答と Advice 3. 学期末試験の範囲の重要構文、イディオム等の復習と試験の内容の説明 | Unit 1~14の総復習をしておくこと | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|----------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLF31F005S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | メディカル・イングリッシュ Medical English | 1単位 | 選 択 | 演 習 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|---|
| 学修教育目的 | 英語で話す・聞く・読む事により、医療英語に親しむ事ができる。 医療英語を通して、国際的な看護の視点を養う事が出来る。 | |
| | 英語 英語コミュニケーション 医療英語 異文化 | 学修教育目標 臨床現場で、初歩的な医療英語を用いた会話や文章が分かる。 臨床現場で、海外の文化・価値観に配慮した看護の大切さが分かる。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

テキストの各章のテーマに合わせ、医療に関する語彙を増やすための単語学習、英語の聞き取り、会話練習、基本文法の復習、小文の読解を行う。テキストの英文を自然な発音で声に出して読み、お互いに聴きあい、また英文の仕組みとなる文法を皆で考えながら、内容を把握し考え合う。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

メディカル・イングリッシュはオーラルコミュニケーションと密接に関連があり、春学期に開講するオーラルコミュニケーションの学修内容が予備知識や技能となる。

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|--|----|
| 書名：Nursing English in Action 第2版 著者名：山内 豊明 監修他 出版社：NPO 法人 プロフェッショナル イングリッシュ コミュニケーション協会 | なし |
|--|----|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|---|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 臨床現場で、初歩的な医療英語を用いた会話や文章を理解できる。 臨床現場で、海外の文化・価値観に配慮した看護の大切さを理解できる。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章でわかりやすく説明することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | 40 | | 15 | | | | 100 |
| 評価 の 指 標 | 知識に関する評価 | | 10 | 15 | | | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | 10 | | | 5 | | | | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | 5 | | 10 | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 英語で書かれた医療に関する情報や記事を検索・収集し、その内容や要旨を考える。人体の名称や病気等医学に関する基本的な専門用語の英単語が読める。医療現場での英語によるコミュニケーションを図ることができる。 | | | | | 医療に関する基礎的レベルの英語による聞き取り能力、会話力、読解力を身につけることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|----------------------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション・授業の進め方や課題が分かるシラバスや資料の配布と説明 授業への取り組み状況・課題 | 面接授業 講義 | Chapter1の予習 | 30 |
| 第2回 / | Chapter 1 初対面の対応 First Encounter with a Patient (1) —Useful Expression 1(自己紹介、挨拶、聞き返しなどの表現など)の発音や文章を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter1の復習と課題の整理 | 30 |
| 第3回 / | Chapter 1 初対面の対応 First Encounter with a Patient (2) —Vocabulary 2(医学用語の構成、および病院診療科の名称など)を中心に学ぶ— —海外での看護活動についての紹介— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter1の復習と課題の整理 Chapter 2の予習 | 30 |
| 第4回 / | Chapter 2 症状 Symptoms (1) —Vocabulary(体の部位の名称、痛みの種類など)を中心に学ぶ。 —Useful Expressions(様々な症状の表現)を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter2の復習と課題の整理 | 30 |
| 第5回 / | Chapter 2 症状 Symptoms (2) —Useful Expressions(様々な症状の表現)を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter2の復習と課題の整理 Chapter3の予習 | 30 |
| 第6回 / | Chapter 3 患者のプロフィール Patient Profile —Vocabulary(病歴と生活習慣に関する語彙など)を中心に学ぶ— —外国人患者の社会的背景・生活習慣の違いなどへの理解を深める— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter3の復習 Chapter4の予習 課題ノート提出に向けてノートの整理 | 30 |
| 第7回 / | Chapter 4 病歴と生活習慣 Medical History and Lifestyle Habits (1) —Vocabulary(病歴と生活習慣に関する語彙や疾患名・臓器の名称など)とそれらに関する英会話を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク 課題ノート提出 | Chapter4の復習と課題の整理 | 30 |
| 第8回 / | Chapter 4 病歴と生活習慣 Medical History and Lifestyle Habits (2) —Vocabulary(病歴と生活習慣に関する語彙や疾患名・臓器の名称など)とそれらに関する英会話を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク 課題ノート返却 | Chapter4の復習と課題の整理 | 30 |
| 第9回 / | Chapter 1～4 まとめ 復習と英会話 (1) —Chapter 1～4までの語彙を用いた英会話の実践が出来る—海外の看護活動や医療活動について知識を深める— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク ビデオ鑑賞 | Chapter1から4の復習 | 30 |
| 第10回 / | Chapter 1～4 まとめ 復習と英会話 (2) —Chapter 1～4までの語彙を用いた英会話の実践が出来る—海外の看護活動や医療活動について知識を深める— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク ビデオ鑑賞 | Chapter1から4の復習 Chapter5の予習 | 30 |
| 第11回 / | Chapter 5 病棟内のオリエンテーション Unit Orientation —Vocabulary(病棟内:病室の用具、備品、院内規則に関する語彙)や英会話を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter5の復習と課題の整理 Chapter6・7の予習 | 30 |
| 第12回 / | Chapter 6 日常生活動作 Activities of Daily Living (ADL) —Vocabulary(ADL: activities of daily living, 日常生活動作に関連する語彙)を中心に学ぶ— Chapter 7 バイタルサイン Vital Signs —(バイタルサインに関する語彙)を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter6・7の復習と課題の整理 Chapter8・9・10の予習 | 30 |
| 第13回 / | Chapter 8 検査と処置 Tests & Procedures —Vocabulary(検査と処置に関する語彙)を中心に学ぶ— Chapter 9 処方薬の管理 Medication Administration —Vocabulary(薬の種類・形状などに関する語彙)を中心に学ぶ— Chapter 10 退院時の指導 Discharge Instructions —Vocabulary(退院時の説明や退院後の生活指に関する語彙)を中心に学ぶ— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter8・9・10の復習と課題の整理 | 30 |
| 第14回 / | Chapter 1～10のまとめ —今までに学修した Vocabulary や英会話を中心に復習する— 授業への取り組み・課題 | 面接授業 講義 グループワーク | Chapter1から10までの総復習を行う | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLF21F003S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | 役立つ韓国語（入門） Korean Language (Basic Class) | 1単位 | 選択必修 | 演習 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>日本は歴史的にも地理的にも朝鮮半島と密接な関係を持ってきました。一番近い国の言葉である韓国語が少しでも分かるということは、情報社会の仕事の上でも大変力になってくれることと思います。この授業では、韓国語の基礎を学びながら、韓国の風習や現在の韓国社会と接する機会にします。</p> | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|--|

| | | | |
|-------|-------------------------|--------|---|
| キーワード | 基本あいさつや日常会話などが分かるようになる。 | 学修教育目標 | 旅行などの目的で韓国を訪問した場合、ハングルで書いてある看板や道案内を見て目的地に着くことができ、食堂でメニューをみて注文ができるようになることを目指します。 |
|-------|-------------------------|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>日本語と一番近い言葉でもある韓国語だから一番やさしい言語でもあります。教科書を中心に練習して行くと自然に身につけることができます。</p> | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>教科書のハングル形を前もって覚えると理解がより早くできます。</p> | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|---|--------------|
| 書名：かんたん！韓国語 著者名：金殷模、権来順、宋貞喜、文慶チョル 出版社：朝日出版社 | 特になし |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|---|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 状況によって対応可能な会話の実力を身につける。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 怖がらず、誰にでも会話ができるようにする。 | △ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 在日が多い日本だからこそ多様な人々との韓国語でコミュニケーションができることを目指す。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 言葉に自信が持てるようにする。 | ○ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 少しでも韓国語ができることで周りにも頑張れるよう良い影響を与える。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら考えながら学習できるようにする。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 学生達が外国語に対して楽しく勉強出来るようにすること。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 自信をもって話すこと。 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 面白く授業に臨む。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 毎日一言でも覚える習慣になるように | ○ |
| | ③ 創造力 | 言いたいことの練習 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 2人または、3人で会話練習しながら会話を高める。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 集中できるようにする。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | とっさの時にも対応できるようにする。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 映画やドラマ、k-popなどを通じての学習などを使う。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 毎回宿題などで習った学習を自分のものにする。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------|------|----|------|-------------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | 10 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 10 | 4 | 2 | | | | 4 | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | 4 | 2 | | | | 4 | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 4 | 2 | | | | 4 | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | 10 | 4 | 2 | | | | 4 | 20 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | 4 | 2 | | | | 4 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 韓国人と基本的なコミュニケーションが出来るレベル | | | | | ハングルの読み書きと韓国旅行などつさの時に簡単な会話も出来るレベル程度 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|-----------------------------|---------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 現代韓国や韓国語について 韓国語と日本語の類似点 | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 基本あいさつ表現確認チェック | | | |
| 第2回 / | ハングルの基本母音と基本子音1 | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 基本母音の形と発音チェック | | | |
| 第3回 / | ハングルの基本母音と基本子音2 | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 基本子音の形と発音チェック | | | |
| 第4回 / | 合成母音 | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 合成母音を組み合わせた単語を覚える。 | | | |
| 第5回 / | 激音の発音 | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 濃音、激音のある単語の読みチェック | | | |
| 第6回 / | パッチム（終声の仕組み） | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | パッチムのある単語の読み方チェック 小テスト | | | |
| 第7回 / | 韓国人ですか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | | | | |
| 第8回 / | 学生ですか | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | | | | |
| 第9回 / | 何時ですか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 数詞の発音をチェック | | | |
| 第10回 / | 野球選手ではありません | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 単語の読み方をチェック | | | |
| 第11回 / | これは何ですか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 指示代名詞の使い方をチェック | | | |
| 第12回 / | どこにありますか | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 場所を表す単語チェック | | | |
| 第13回 / | 何をしますか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 疑問文の使い方をチェック | | | |
| 第14回 / | 何時に起きますか 全体のまとめ | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| | 練習問題を通じて助詞の使い方をチェック | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLF22S003A | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | 知って得する韓国語（応用） Korean Language (Advanced Class) | 1単位 | 選択必修 | 演習 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--|
| 学修教育目的 | 日本は歴史的にも地理的にも朝鮮半島と密接な関係を持ってきました。 一番近い国の言葉である韓国語が少しでも分かるということは、情報社会の仕事の上でも大変力になってくれることと思います。 この授業では、韓国語の基礎を学びながら、韓国の風習や現在の韓国社会と接する機会にします。 | |
| | 挨拶 自己紹介 作文 | 役に立つ韓国語応用終了後には、ハングル検定5級/4級に合格することを目標としている。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| 韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|------------------------------------|
| 教科書の単語や基本表現などを前もって覚えると理解がより早くできます。 |
|------------------------------------|

教科書

参考書・リザーブドブック

| | |
|---|------|
| 書名：かんたん！韓国語 著者名：金殷模、権来順、宋貞喜、文慶チヨル 出版社：朝日出版社 | 特になし |
|---|------|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-----------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 状況によって対応可能な会話の実力を身につける。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 怖がらず、誰にでも会話ができるようにする。 | △ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | グローバル社会において活躍の場所を多様な場に広めることができる。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 言葉に自信が持てるようにする。 | ○ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 少しでも韓国語ができることで周りにも頑張れるよう良い影響を与える。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 新しい言葉を学習する、ということから自ら積極的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 学生達が外国語に対して楽しく勉強出来るようにすること。 | △ |
| | ③ 実行力 | 日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 韓国語の仕組み、文法の形成、会話、作文など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 毎日一言でも覚える習慣になるように | ○ |
| | ③ 創造力 | 言いたいことの練習 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 2人または、3人で会話練習しながら会話力を高める。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 集中できるようにする。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 新たな知識を習得し会話が出来る姿勢を学ぶことができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 映画やドラマ、k-popなどを通じての学習などを使う。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 毎回宿題などで習った学習を自分のものにする。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-------------------|--------------|------|----|------|-------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 30 | | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | 10 | | | | | 4 | 44 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | 4 | 24 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | 4 | 24 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | 4 | 4 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 4 | 4 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 簡単な会話のできる水準まで進める。 | | | | | 読み書きがしっかりできて簡単な会話ができるレベルまで進む。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|------------------------|---------------------------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 朝ご飯は食べません | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第2回 / | どこに住んでいますか | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第3回 / | 今日忙しいですか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第4回 / | 先生でしたか | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第5回 / | 何をしましたか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第6回 / | ごはん食べましたか | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第7回 / | 何をしたいですか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第8回 / | 10課から15課までのまとめ 小テスト | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第9回 / | 安くて美味しいです | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第10回 / | 映画見に行きましょうか | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第11回 / | 何をなさいますか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第12回 / | コーヒーを飲みます | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第13回 / | 何をする予定ですか | 面接授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |
| 第14回 / | 映像を通じての会話練習 まとめ | 簡単なセリフなどを発音練習しながら覚える オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：40分、復習：40分 | 80 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに決めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLF21F004S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | 役立つ中国語（入門） Chinese Language (Basic Class) | 1単位 | 選択必修 | 演習 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--------|
| 学修教育目的 | 中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることを目指す。 | |
| | キーワード | 学修教育目標 |

| | | | |
|-------|----------------|--------|--|
| キーワード | 発音 文法 会話 | 学修教育目標 | 「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。 |
|-------|----------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| 二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 ①一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること。 ②問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること。 |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|----|
| なし |
|----|

教科書

参考書・リザーブドブック

| | |
|--|----|
| 書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社 | なし |
|--|----|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 中国語の基礎力を養成する。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 予習、演習などに主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 口頭や文章でパフォーマンスすることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | | 10 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 10 | 5 | | 2 | | | 4 | 21 |
| | 技能に関する評価 | | 15 | 5 | | 2 | | | 4 | 26 |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | 5 | | 4 | | | 5 | 29 |
| | チームワークに関する評価 | | 5 | 2 | | | | | 2 | 9 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | 3 | | 2 | | | 5 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。 | | | | | 各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---|---------------------------|------------------------------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1回 中国の概況、挨拶言葉 発音①四声 ②単母音 ③子音 ④複合母音 | 面接授業 口頭で発音の説明と練習をする | 発音と挨拶用語を復習する | 中国についての紹介 20 発音練習 50 挨拶用語 20 |
| 第2回 / | 第一課 本文の読み方と意味説明 判断の表し方（名詞文の基礎） 自己紹介の学習 | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第3回 / | 第一課 名詞文の表現と練習 | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第4回 / | 第二課 本文の読み方と意味説明 存在文と所有文の表現 | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第5回 / | 第二課 疑問詞疑問文の表現と練習 | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第6回 / | 筆記テスト①（第一課～第二課） 口頭試験（自己紹介）① | 面接授業 第1課と第2課を復習して、テストを実施する | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第7回 / | 第三課 本文の読み方と意味説明 動詞文の表現 曜日の言い方 | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第8回 / | 第三課 前置詞「在」 連動文の表現と練習 | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第9回 / | 第四課 本文の読み方と意味説明 形容詞文の表現 反復疑問文 | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第10回 / | 第四課 本文の読み方と意味説明 主述述語文 数量詞の表現と練習 | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |

授 業 計 画 表

| 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|--|--|---|---------------------------|----------------------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間（分） |
| 第11回 筆記テスト②（第三課～第四課）（30分間） 第五課 本文の読み方と意味説明 動詞文の肯定の表現 / | | 面接授業 第3課と第4課を復習して、テストを実施する 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する | 単語と本文を予習復習する | テスト30 読む書く30 説明解釈30 |
| | | | | |
| 第12回 第五課 並列の表現 存在場所を表す表現 動詞文の否定の表現 活動場所を表す表現 追加の意味を表す表現 / | | 面接授業 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 6) 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習30 書く練習30 説明解釈30 |
| | | | | |
| 第13回 第六課 本文の読み方と意味説明 所有を表す表現 存在を表す表現 / | | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習30 書く練習30 説明解釈30 |
| | | | | |
| 第14回 第六課 予定、計画を表す表現 因果関係を表す表現 練習問題をする / | | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習30 書く練習30 説明解釈30 |
| | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|---------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLF22S004A | 総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー | 知って得する中国語（応用） Chinese Language (Advanced Class) | 1単位 | 選択必修 | 演習 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--------|
| 学修教育目的 | 中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることを目指す。 | |
| | キーワード | 学修教育目標 |

| | | | |
|-------|----------------|--------|--|
| キーワード | 発音 文法 会話 | 学修教育目標 | 「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。 |
|-------|----------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| 二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1) 一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること。 2) 問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること。 |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|----|
| なし |
|----|

教科書

参考書・リザーブドブック

| | |
|--|----|
| 書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社 | なし |
|--|----|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 中国語の基礎力を養成する。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|------------------------------------|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 予習、演習などに主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 口頭や文章でパフォーマンスすることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | | 10 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 10 | 5 | | 2 | | | 4 | 21 |
| | 技能に関する評価 | | 15 | 5 | | 2 | | | 4 | 26 |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | 5 | | 4 | | | 5 | 29 |
| | チームワークに関する評価 | | 5 | 2 | | | | | 2 | 9 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | 3 | | 2 | | | 5 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。 | | | | | 各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|--|---|---------------------------|-------------------------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第7課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 前置詞を習う | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第2回 / | 第7課 ④ 連動文の表現を習う ⑤ 練習問題をやる | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第3回 / | 第8課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 二重目的語表現を習う | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第4回 / | 第8課 ④ 前置詞「給」を習う ⑤ 助動詞「要」と疑問詞を習う ⑥ 第8課の練習問題をやる | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第5回 / | 筆記試験① 内容範囲：第7課と第8課 口頭試験① | 面接授業 第7課と第8課と口頭試験内容を練習して、テストを実施する | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第6回 / | 第9課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 状態補語の表現を習う | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第7回 / | 第9課 ④ 比較文「比」と「没有」を習う ⑤ 助動詞「会」を習う ⑥ 練習問題をやる | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第8回 / | 第10課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 進行形の表現を習う | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |
| 第9回 / | 第10課 ④ 結果補語を習う ⑤ 助動詞「应该」を習う ⑥ 練習問題をやる | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| | | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|--|---------------------------|-------------------------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第10回 / | 筆記試験② 内容範囲：第9課と第10課 第11課 ① 本文を読む ② 本文を説明する | 面接授業 第9課と第10課を復習して、テストを実施する 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する | 単語と本文を予習復習する | テスト 30 読む書く 30 説明解釈 30 |
| 第11回 / | 第11課 ③ 文型などの表現を習う ④ 「是…的」構文を習う ⑤ 練習問題をする | 面接授業 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第12回 / | 第12課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 変化の「了」を習う | 面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第13回 / | 第12課 ④ 副詞の表現を習う ⑤ 「一点儿」と「有点儿」を習う | 面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |
| 第14回 / | 第12課 ⑥練習問題をする 復習、口頭試験の練習まとめ | 面接授業 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） 9) 第11課と第12課と口頭試験内容を復習する | 単語と本文を予習復習する | 読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|--------------------------------|--------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLI11F008S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー | 情報の倫理 Ethics of Information | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|---|
| 学修教育目的 | <p>情報社会の進展で、職場や家庭に広く普及したコンピュータ等の情報機器を扱う環境の変化、とりわけインターネットの急激な発展で私たちの生活が便利で豊かなものになった反面、いわゆる情報モラルの低下が叫ばれ、情報の倫理がきびしく問われている。ここでは、情報社会がもたらす「光」（恩恵）と「影」（問題点）について、さまざまな事例を通して学び、理解を深めることを目的とする。</p> | |
| | <p>情報社会、個人情報、知的財産権、有害情報、コンピュータ犯罪、セキュリティ対策</p> | <p>学修教育目標</p> <p>情報社会をよりよく生きるために求められる有益・有害情報の取捨選択、情報の適切な取り扱いと運用、社会規範や情報ネットワークにおけるルールの遵守など、情報社会が投げかける「光」と「影」の部分に対する知識と意識を高め、適切に情報を取り扱う能力を培うことを目標とする。</p> |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>この授業では、インターネットを利用したサービスの有効性や可能性という「光」の部分と、さまざまなトラブルや悪用などの「影」の部分について認識を深める。各回の授業内で演習や課題を課すので自らの力で取り組むこと。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|--|
| <p>情報リテラシー科目である「看護情報リテラシー基礎」「看護情報リテラシー応用」の理解につながる。</p> |
|--|

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|---|--|
| <p>書名：インターネットの光と影 Ver6 著者名：情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究会グループ編 出版社：北大路書房</p> | <p>書名：インターネット社会を生きるための情報倫理 著者名：情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究会グループ編 出版社：実教出版</p> |
|---|--|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 有益有害情報の取捨選択、情報の適切な取り扱いと運用、社会規範やネットワークにおけるルールの遵守など情報社会の光と影の部分を理解して看護ができる。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し最適な行動を実行できる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 20 | | | | 30 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | 10 | | | | 15 | 55 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 5 | | | | 5 | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | 5 | | | | 10 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>「インターネットの光と影」とは何かを理解している。 インターネットの仕組みとサービスの有効性、利用性という光の部分を充分理解している。個人情報、知的所有権、有害情報、コンピュータ犯罪、セキュリティ対策などの仕組みを理解している。 各項目の理解度が80%以上である。</p> | | | | | <p>「インターネットの光と影」とは何かを理解している。 インターネットの仕組みとサービスの有効性、利用性という光の部分を理解している。個人情報、知的所有権、有害情報、コンピュータ犯罪、セキュリティ対策などの基本的な仕組みを理解している。 各項目の理解度が60%～80%以上である。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|--------------------------------|-----------------------------------|----------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス 授業の目標、学習内容、授業方法、評価方法など、「情報の倫理」を学ぶためのガイダンスを受ける。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第2回 / | 情報とその特性 情報と情報の媒体、情報の価値、情報の特性などについて理解する。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第3回 / | インターネットの光と影 インターネットの有効性や利便性という光の部分、サイバー犯罪等の影の部分について認識を深める。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第4回 / | 個人情報 個人情報の経済的効果、漏洩とその被害、情報の保護と漏洩対策について学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第5回 / | 知的財産権 侵害や防衛に関して、コンピュータと知的所有権とのかかわりについて事例をとおして学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第6回 / | 情報技術の活用と課題 遠隔医療など生活を支える情報技術とネット依存などの問題について学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第7回 / | インターネットビジネス インターネットショッピングやオークションの利用と売買トラブルやマルチ商法等の問題、消費者保護、電子マネーの利用やテレワークなどのワークスタイルの変化について学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第8回 / | ネットワーク上の問題行動と有害情報 インターネットを用いた問題行動、名誉毀損、炎上、性犯罪、いじめなどの問題、さらに有害情報やフィルタリングの利用などについて学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第9回 / | 情報コミュニケーションとモラル 電子メール、メーリングリスト、SNS やブログ、動画視聴サイトなどソーシャルメディアの活用と、使用上のモラルについて理解する。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第10回 / | コンピュータ犯罪 不正アクセス、ネット詐欺や違法物の販売などのサイバー犯罪、コミュニティサイトを通じた犯罪について、事例を通じて理解する。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第11回 / | 情報セキュリティ パスワードほか各種認証、コンピュータウイルスの被害と対策、Web ページや電子メールのセキュリティ、暗号化技術の利用について学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第12回 / | 情報操作 情報の独占・隠蔽、捏造、改ざん、隠蔽・消去が社会におよぼす影響について学ぶ。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第13回 / | 情報機器使用上のモラル スマートフォン、ゲーム機、タブレット PC 等の情報機器を使用する際のモラルとマナーについて考え、意識を高める。 | 講 義（面接授業） DVD教材、パワーポイント | ・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |
| 第14回 / | まとめ 情報倫理の学習を振り返り、まとめを行う。 | 講 義（面接授業） パワーポイント | ・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習 | 復習 30 |
| | コメントシートを提出 | | | |

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|--------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLI11S009S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー | 看護情報リテラシー基礎 Nursing Information Literacy (Basic Course) | 1単位 | 必修 | 演習 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--------|
| 学修教育目的 | 病院などの医療機関では、患者のさまざまな情報をコンピュータで管理することにより、事務処理の迅速化と、より良い看護・医療の提供に努めている。本授業では、看護の分野において情報を活用する目的と意義を理解し、看護の実務処理現場で必要な情報リテラシーとよばれる基礎的な情報処理技術を身につけることを目的とする。 | |
| | キーワード | 学修教育目標 |

| | | | |
|-------|----------------|--------|---|
| キーワード | 情報管理 セキュリティ | 学修教育目標 | ・Windows環境のもとで、情報モラルとセキュリティを意識し、WORDを使用して、医療関連情報をまとめた文書作成の技術を習得し、Powerpointを使用した視覚効果のあるプレゼンテーションの基本的技術を習得する。また、Excelを使用して医療関連情報のデータを管理、解析する基本的技術を習得する。 ・特に文書処理技術の向上を目指し、Word3級程度の資格取得も目標とする。 |
|-------|----------------|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| タブレット、パット操作が主体となる今日、パソコン操作が苦手の学生は、この機会に克服して基本となるアプリケーションを使いこなして、実践的な情報管理能力を習得する。できるだけ自主的にサーティファイ「WORD文書処理技能試験」などに挑戦することが望まれる。 また、タイピングソフト（TYPEQUICK）を利用して正確なタイプ操作の技能を高める努力をすることが大切である。 |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| 後期の「看護情報リテラシー応用」を学ぶにあたり、基礎知識の授業科目である。 社会人として仕事に必要な不可欠な基本的なアプリケーション技能として、認定試験のサーティファイ「WORD文書処理技能試験」合格へ繋がる科目である。 |
|---|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|---|--|
| 書名：医療従事者のための情報リテラシー 出版社：日経BP 他、授業内で添付配布資料 | 書名：医療・看護系のための情報リテラシー 出版社：東京図書 書名：よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 著者名：内田 治 出版社：東京図書 書名：Word文書処理技能認定試験 3級問題集 出版社：サーティファイ |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | ケア提供を正確にできるように情報を管理する力を身に着ける。 | ○ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 健康な生活作りを促進するため情報提供する資料作りができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業準備をしっかり行い、積極的に計画をたてて学習能力を深めることができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 疑問や確認を自らすすんで質問することができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 課題を時間内で仕上げ追加課題も進んで取り組むことができる。資格取得の努力をすることができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分のわからない点を明確にし、解決する努力をする。 | ○ |
| | ② 計画力 | 学内サイトの授業連絡事項を参考に、課題の仕上げ、受講準備を計画的に行える。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 効率化と正確さを意識することができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の実力が高まったときは、どれだけ技術力、理解度が高まっているか説明できる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 説明、意見を丁寧に聞き取り、メモを取ることができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 効率化を意識することにより、いろいろな手法を考える力が高められる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分の出席状況、期限内課題提出の有無など自己管理できる。今何をすべきかの理解度高められる。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | 基本的な、受講ルールに従って周りとの調和を取り、受講態度を快適にコントロールすることができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 必要のない私語をひかえて状況を把握し、情報倫理を意識しながら取り組むことができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | | 30 | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | 10 | | 5 | 35 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | | 10 | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | 10 | | 5 | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | 5 | | | | | | 5 | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | | | | | | 5 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>患者のさまざまな情報をコンピュータで管理することにより、事務処理の迅速化とより良い看護・医療の提供に役立てる。看護の分野において情報を活用する目的と意義を理解し、基礎的な情報処理技術を身につけることを目的とする。</p> | | | | | <p>医療データを管理できるアプリケーションの基本的技術を習得する。特に文書処理技術の向上を目指し、Word3 級程度の資格取得も目標とする。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 授業の目的、計画、評価方法などを知る。 看護と情報リテラシー 医療・看護分野での情報リテラシーの必要性を理解する。 学内の情報環境、ブラウザー、タイプクイックの説明 | 面接授業 ・履修に関する説明。 ・授業で利用するTGU操作。 ・タイプクイックの登録 | ・シラバスで講義内容を把握しておくこと ・タイプクイックの練習 | 60 |
| 第2回 / | Windowsの基礎、情報セキュリティーと情報モラル Windowsの基礎とアプリケーションソフトの利用。 メール、ファイル管理、情報セキュリティー、情報モラルについて、 タイプクイック。 | 面接授業 ・タイプクイックの練習 ・授業利用学内メールの取り扱い。 | ・タイプクイックの練習 ・メールの送受信方法について完全にマスターしておくこと | 60 |
| 第3回 / | Wordの基礎（1）画面構成と入力の基本操作 Wordの機能を理解し、操作方法を習得する。 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第4回 / | Wordの基本（2）医療データを利用して、わかりやすい文書の構成、表 を活用した文書の作成と印刷 飾、配置の方法、表の挿入と編集方法を習得し、印刷する。 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第5回 / | Wordの応用（3）医療データを利用して表の構成を学ぶ、グラデーション を利用し描画を描く。 文書の中に図形や画像を挿入し、編集する方法を習得する。 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第6回 / | Word 資格模擬問題 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第7回 / | Word 資格模擬問題 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第8回 / | PowerPointの基礎（1） PowerPointの基本的な機能を理解する。 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第9回 / | PowerPointの基礎（2） PowerPointの応用的な機能を理解する。 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第10回 / | PowerPointの基礎（3） 課題を利用してプレゼンテーションとしてのデータをまとめる。 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第11回 / | Excelの基礎（1）医療データを利用して基本的なワークシート編集 計算式の入力、計算式の複写、再計算と演算子、行と列の挿 入と削除、表示形式・列幅・表示位置・書式の変更、オートフィル機能、 表の罫線作成機能を習得する。アンケート用紙の作成 | 面接授業 タイプクイックの練習 ・実技指導 ・課題 | ・タイプクイックの練習 ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第12回 / | Excelの基礎（2）医療データを利用して関数を使った計算方法 関数、%を含んだ表の作成、小数部表示の調節、小数点を操作する関 数、条件判断、ランクづけ、相対指定と絶対指定機能を習得する。 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第13回 / | Excelの応用（3）医療データを利用してアンケートデータの入力と集 計 セルの結合、効率的なデータの管理、ピボットテーブル利用をして集 計をしてグラフ作成を行おう。 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第14回 / | 前期総合課題演習 前期で習得機能を利用 総合課題を作成、実力確認、質疑応答による問題解決を行う。 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|--------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLI31F010A | 総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー | 看護情報リテラシー応用 Nursing Information Literacy (Application Course) | 1単位 | 選 択 | 演 習 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|--|
| 学修教育目的 | <p>表計算ソフト Excel を使い、データを集計、分析する能力を身につけ、看護活動の場で実際に活用できる能力を育成する。また、病院内ネットワークシステムによる情報の共有化と活用方法、個人情報保護と管理の重要性などを理解する。</p> |
|--------|--|

| | | | |
|-------|------------------------|--------|--|
| キーワード | <p>情報管理 セキュリティ</p> | 学修教育目標 | <p>本授業では、看護業務の中で必要とされる、薬・検査オーダー、看護処置などの患者情報の一覧表を作成し、並び替え、グラフ化、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を習得する。インターネットで公開されている統計データや実験結果を使用して、データの集計、分析方法の実際例を理解する。また、表計算処理技術の向上をめざし、Excel3 級程度の資格取得も目標とする。</p> |
|-------|------------------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| <p>前期で学んだ基礎技能を応用してアプリケーションを使いこなし、実践的な情報管理能力を習得する。できるだけ自主的にサーティファイ「EXCEL 表作成処理技能試験」などに挑戦することが望まれる。 また、正確な情報の伝達の技法を学ぶ努力を期待する。</p> |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>後期の「看護情報リテラシー応用」を学ぶにあたり、前期の基礎知識を利用のもとに应用技能を高める授業科目である。 社会人として仕事に必要な不可欠な基本的なアプリケーション技能として、認定試験のサーティファイ「EXCEL 表作成処理技能試験」合格へ繋がる科目である。</p> |
|---|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブドブック |
|--|--|
| <p>書 名：医療従事者のための情報リテラシー 出版社：日経B P 他、授業内で添付配布資料</p> | <p>書 名：医療・看護系のための情報リテラシー 出版社：東京図書 書 名：よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 著者名：内田 治 書 名：EXCEL 表計算処理技能認定試験 3級問題集 出版社：サーティファイ</p> |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1) | |
|-----|-------------------------|--------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | ケア提供を正確にできるように情報を管理する力を身に着ける。 | ○ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 健康な生活づくりを促進するため情報提供する資料作りができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2) | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業準備をしっかりと行い、積極的に計画をたてて学習能力を深めることができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 疑問や確認を自らすすんで質問することができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 課題を時間内で仕上げ追加課題も進んで取り組むことができる。資格取得の努力をすることができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分のわからない点を明確にし、解決する努力をする。 | ○ |
| | ② 計画力 | 学内サイトの授業連絡事項を参考に、課題の仕上げ、受講準備を計画的に行える。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 効率化と正確さを意識することができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の実力が高まったときは、どれだけ技術力、理解度が高まっているか説明できる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 説明、意見を丁寧に聞き取り、メモを取ることができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 効率化を意識することにより、いろいろな手法を考える力が高められる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分の出席状況、期限内課題提出の有無など自己管理できる。今何をすべきかの理解度高められる。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | 基本的な、受講ルールに従って周りとの調和を取り、受講態度を快適にコントロールすることができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 必要のない私語をひかえて状況を把握し、情報倫理を意識しながら取り組むことができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | | 30 | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | 10 | | 5 | 35 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | | 10 | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | 10 | | 5 | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | 5 | | | | | | 5 | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | | | | | | 5 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>患者のさまざまな情報をコンピュータで管理することにより、事務処理の迅速化とより良い看護・医療の提供に役立てる。看護の分野において情報を活用する目的と意義を理解し、応用的な情報処理技術を身につけることを目的とする。</p> | | | | | <p>医療データを管理できるアプリケーションの応用的技術を習得する。特に表計算処理技術の向上をめざし、Excel3 級程度の資格取得も目標とする。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|----------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 授業の目的、計画、受講上の注意、評価方法などを知る。 看護とコンピュータの活用 看護におけるコンピュータ利用の目的と意義を、さまざまな看護支援システムや医療情報ネットワークシステムの例から学ぶ。 | 面接授業 ・履修に関する説明 | ・シラバスで講義内容を把握しておくこと | 60 |
| 第2回 / | 基本的なワークシート編集 計算式の入力、計算式の複写、再計算と演算子、行と列の挿入と削除、表示形式・列幅・表示位置・書式の変更、オートフィル機能、表の罫線作成 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第3回 / | 関数を使った計算方法（1） 合計、平均、最大・最小、数を数える関数、%を含んだ表の作成、小数部表示の調節、小数点を操作する関数、条件判断、ランクづけ、相対指定と絶対指定 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第4回 / | 関数を使った計算方法（2） 合計、平均、最大・最小、数を数える関数、%を含んだ表の作成、小数部表示の調節、小数点を操作する関数、条件判断、ランクづけ、相対指定と絶対指定 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第5回 / | Excel（表計算ソフト）統計情報の取り扱い基本 データ分析 度数分布表 基本統計量 正規分布 ワークシートの保存・印刷 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第6回 / | グラフの作成 グラフ化のメリット、グラフの種類、グラフの調節、項目の追加、離れたデータを使ったグラフ | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第7回 / | Excelの便利な機能を使いこす セルの参照機能、ナンバリング、セルの結合、セル内の文字配列 Excelのデータベース機能 並べ替え（ソート）、抽出（オートフィルタ）、グループ集計 WordとExcel ワークシートへの文書埋込、文書へのワークシート埋込 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第8回 / | Excel 資格模擬問題 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第9回 / | Excel 資格模擬問題 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第10回 / | Excel 資格模擬問題 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第11回 / | 総合問題（個人課題）（1） | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第12回 / | 総合問題（個人課題）（2） | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第13回 / | 後期総合課題演習 後期で習得機能を利用 総合課題を作成、試験前対策として実力確認。質疑応答による問題解決を行う。 | 面接授業 ・実技指導 ・課題 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |
| 第14回 / | データベースソフト、統計分析ソフトの紹介と看護への活用 今後の学習や将来看護の仕事や研究で必要となるソフトの概要を知る。 | 面接授業 ・実技指導 | ・TGU授業連絡を確認する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|--------------------------------|--------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLI12S011S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー | わかる統計学 Statistics for Nurse | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|---|
| 学修教育目的 | <p>統計の知識は、すべての人にとって必須の知識となっている。 本講義では、推測統計学の重要性を学び、統計学が適用される現実の諸問題に関して、統計的に処理する方法論を教授する。具体的には、まず統計学の概念や論理的側面を全体的に把握し、さらに統計的データ処理の方法を自ら計算することにより統計学の必要性を理解することを目標とする。</p> | |
| | <p>記述統計 推測統計 確率分布 データ解析</p> | <p>学修教育目標</p> <p>多方面で利用される統計的な処理の論理的背景を習得でき、特に医療分野におけるデータの実践的処理の方法を習得することができる。 また、今後履修する様々な応用専門科目の理解のための、統計学的素養を持つこともできる。</p> |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>看護分野においても、大量のデータから有効な情報を得るためには統計学が重要な役割を担っている。 本講義では、授業計画表に基づき、統計学の知識を学習します。 事前に各回の講義内容を示すので、予習および復習を行って講義に臨んで下さい。 また、講義中にレポートを課すので、時間内に計画的に進めて提出して下さい。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>数学の基礎知識が必要となります。 国家試験に必須な重要科目です。</p> |
|---|

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|---|--------------|
| <p>書名：看護系学生のためのやさしい統計学 著者名：石村貞夫、今福恵子、田沼美杉 出版社：共立出版(株)</p> | なし |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 集団における現象の観察や統計処理の基礎となる統計学が理解できる。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 講義の予習・復習、レポート課題などに主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | わかること、わからないことを明確にしてレポート課題に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 時間内にレポート課題を計画的に進めることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 15 | 35 | | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | 5 | 10 | | | | | 35 |
| | 技能に関する評価 | | 15 | 5 | 10 | | | | | 30 |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | 5 | 10 | | | | | 30 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 看護分野での応用や研究活動に活かせるようになる。 | | | | | 統計に関する基本を理解し統計資料を読み取れる。 データの統計処理ができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|------------------------------|-------------------------------|----------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス、統計学・確率・統計的方法・統計的調査とは 本講義の進め方や受講上の注意事項、統計学の意味、確率の意味 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第2回 / | データの特徴を図で表す 記述統計と推測統計、サンプリング、データの収集、データの種類、 測定の水準、データの図示、度数分布、累積分布 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第3回 / | データの特徴を数値で表す 統計的変量、誤差・精度・近似値、平均、ばらつきの尺度、歪度、尖度 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第4回 / | 偶然事象と確率 確率とは、事象、排反事象、独立事象、統計的確率 確率変数、期待値、偏差、分散 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第5回 / | データの生みの親－母集団－ 母集団とは、母集団分布、母数とは、確率密度関数、分布関数、母平均 母分散 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第6回 / | 母集団と種々の分布 離散分布、二項分布、ポアソン分布、連続分布、正規分布 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第7回 / | 正規分布とその応用（1） 正規曲線、正規分布表とその利用法 一般の正規分布、二項分布の正規、近似 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第8回 / | 正規分布とその応用（2） 正規曲線、正規分布表とその利用法 一般の正規分布、二項分布の正規、近似 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第9回 / | 統計的推測（1） - 標本分布（1） - 母数の推定、点推定、区間推定、不偏推定量、信頼係数 サンプル平均の分布と性質、期待値と分散、区間推定、信頼限界 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第10回 / | 統計的推測（2） - 標本分布（2） - 母数の推定、点推定、区間推定、不偏推定量、信頼係数 プル平均の分布と性質、期待値と分散、区間推定、信頼限界 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第11回 / | 統計的仮説検定 - 平均値の検定 - 統計的仮説とは、帰無仮説、対立仮説、棄却域、有意性の意味 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第12回 / | 独立性の検定 m×n 分割表、四分表、離散分布の母数の推定 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第13回 / | 相関分析、ノンパラメトリック検定 統計学の応用範囲、演習 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |
| 第14回 / | まとめ（講義時間内試験） 統計学の利用方法についてまとめる 小レポート | 講義（面接授業） デジメ配布 パワーポイント | ・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習 | 予習 30 復習 30 |

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|----------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLH31S012S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー | 健康管理概論 Introduction to Health Care Administration | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|---|
| 学修教育目的 | <p>健康管理の理念について、多様化される社会変化において、健康は単に疾病や病弱ではないという消極的意味ではなく、積極的な意味を持っているものであり、WHO憲章に示す身体的・精神的・社会的に最善の状況に持っていくための国の方針を学び、健康管理の概念や方法・あらゆる場における関連職種の実際活動の意義を理解する。</p> |
|--------|---|

| | | | |
|-------|--|--------|---|
| キーワード | <p>健康 不健康 疾病 健康管理 加齢 健康と運動</p> | 学修教育目標 | <p>疾病構造の変化とその理由について理解し、少子高齢化社会に生活する人々の特徴や健康度を適正に把握する認識を身につけ、健康管理の必要性を学修する。また、疾病や不健康を予防する健康レベルに適した健康管理活動方法を理解・認識できる。</p> |
|-------|--|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>人の生命や健康に携わる保健医療福祉の従事者は、世の中の人口動態や保健医療制度等の変化を反映する新しい統計の入手や、変化に対応するための新しい制度を理解しておく必要がある。そこで、健康の捉え方、健康の定義、健康観、予防医学の考え方、健康の指標と現状、健康増進、生活習慣と健康、運動、ストレスと休養・睡眠、疾病の予防、健康管理の進め方、健康管理の実際、健康情報などについて学修し、保健医療福祉の現場で生かすようにする。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>健康に関連する科目としては、健康心理カウンセリング、看護職のための関係法規、保健医療福祉行政論、社会福祉保障論、障がい者福祉論、衛生・公衆衛生学、保健統計学、疫学、在宅看護論、在宅看護援助論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動展開論、保健指導論、健康教育論など多くの科目がある。</p> |
|---|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|--|---|
| <p>書名：基礎から学ぶ健康管理概論、改定第5版、 著者名：編集；尾島俊之、堤明純、 出版社：南江堂</p> | <p>書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--------------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 健康についての正しい知識、疾病の予防、健康の管理方法について理解できる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 自身が計画したことを成し遂げることができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 問題解決のために、適切な計画を立てることができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 必要な時に自分の考えを表現できる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他の人の考えを理解しようと心がけることができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | チームでの規律を尊重することができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--------------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | 20 | 10 | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 15 | 4 | | | | 5 | 64 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 5 | 3 | | | | | 18 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 3 | | | | 5 | 8 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 5 | | | | | | 5 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 健康についての正しい知識、疾病の予防、健康の管理方法について理解し、他の科目の学修内容と関連づけて説明することができる。 | | | | | 健康についての正しい知識、疾病の予防、健康の管理方法について理解できる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|-----------|-----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 社会と健康 健康の概念 公衆衛生の概念 社会的公正と健康格差の是正 公衆衛生・予防医学の歴史 環境と健康 国際保健 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第2回 / | 疫学 定義 疫学指標 疫学研究の方法と倫理 観察研究 介入研究 誤差 因果関係の判定 スクリーニング 根拠（エビデンス）に基づいた医療および保健予防対策 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第3回 / | 統計学 統計学の基本的事項 データの種類と分布 記述統計 分析統計 その他の統計解析方法 | 課題研究による授業 | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第4回 / | 人口静態統計 人口静態統計と国勢調査 人口の推移 世界の人口 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第5回 / | 保健統計指標 人口動態統計 生命表 傷病統計 | 課題研究による授業 | 授業の復習および次回の講義の予習 小テストの準備 | 45 |
| 第6回 / | 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策 健康管理に関する行動と社会 食生活と栄養 身体活動・運動 喫煙行動 飲酒行動 睡眠, 休養, ストレス 歯科保健行動 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第7回 / | 主要疾患の疫学と予防対策 がん 循環器疾患 代謝性疾患 骨・関節疾患 感染症 精神疾患 その他の疾患 | 課題研究による授業 | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第8回 / | 地域の保健予防システム 原則と考え方 保健所の役割 市町村保健センターの役割 保健師の役割 食生活の改善と栄養士の役割 災害・健康危機管理対策 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第9回 / | 社会保障制度 社会保障の概念 医療制度 福祉制度 所得保障 雇用 | 課題研究による授業 | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第10回 / | 高齢者・成人の健康管理 高齢者の医療の確保に関する法律 健康増進事業 介護保険法 地域包括ケアシステム 高齢者保健の課題 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 小テストの準備 | 45 |
| 第11回 / | 母子の健康管理 母子保健事業 児童虐待 小児医療費公費負担制度 母体保護法 健やか親子21（第2次） 子ども・子育て支援新制度 | 課題研究による授業 | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第12回 / | 学校の健康管理 健康診断と保健指導 学校給食 栄養教諭 保健教育 児童生徒の問題行動 | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第13回 / | 職場の健康管理 労働と健康 労働安全衛生法 労働安全衛生対策 産業保健従事者 職業と健康障害 労働災害 | 課題研究による授業 | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |
| 第14回 / | 健康管理の実際 まとめ | 講義（面接授業） | 授業の復習および次回の講義の予習 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|----------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLH31S013S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー | レクリエーションとスポーツ Recreation and Sports | 1単位 | 選 択 | 実 習 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--|
| 学修教育目的 | <p>スポーツ種目を活用しながら行うレクリエーション活動の実践を通して、スポーツ・レクリエーション活動が健康におよぼすポジティブな影響を体感し、今後の自分自身の体力づくりや心身のメンテナンス、さらに看護現場でのサポートに援用できることを理解する。また、看護場面における様々な対象者を想定し、対象者の特徴や目的に合わせたスポーツ・レクリエーションを考えて実施案を作成し、実践する。</p> | |
| | <p>スポーツ レクリエーション 健康づくり</p> | <p>学修教育目標</p> <p>スポーツ・レクリエーション活動を通じて、身体活動の重要性など看護に関連する知識・技術を習得することができる。 将来、患者の援助をする者として、周囲の仲間と適切な人間関係を形成し、課題に取り組むことができる。</p> |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| <p>基本支援の技術や方法を、自らの意思で自ら学び、積極的に取り組むことができる。 「よりよく生きる」を目指す。そのための支援、様々な素材、指導活動方法を知ることができる。 「楽しみ・夢づくり・幸せづくり・元気づくり」への共感。</p> <p>※ 体育館シューズが必要です。</p> |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>目的・対象・段階にあわせたプログラム例の把握と理解。 「レクリエーションとスポーツ」の展開方法・組み立ての理解。</p> |
|---|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|-------|--|
| なし | <p>書 名：レクリエーション支援の基礎 著者名：(公財) 日本レクリエーション協会 出版社：(公財) 日本レクリエーション協会</p> |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 基礎的な支援知識、方法を身につける。 | ○ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 基礎的な技術の学修と展開方法・組み立てを身につける。 | ○ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 様々なレクリエーションの知識を身につける。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 運動が疾患の予防に重要な役割を担う事ことを理解する。 | ○ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 楽しみがヘルス・プロモーションに重要であることを理解する。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で学修を進め、自信をもって何事にも取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 協力者に声掛け、役割分担を決め、効果的に協働し取り組むことができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 何事にも、失敗を恐れず体験、喜びを感じ自信をもって確実に行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 目的や問題点を明らかにし、的確に解決策を見つけ行動することができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 個々の支援プロセスをとらえ、自発的に、実践的に計画することができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 多様な知識・技能を用いて、具体的にわかりやすく伝え、創意工夫することができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 事例・模範ゲームを用いて、具体的に的確にわかりやすく伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聴き、正確に理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 他人の考えに共感をもち、自分の役割が何かを見極め、自信をもって取り組むことができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分にできること、他人が出来ることとは何か、すぐ判断し行動することができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 挨拶や礼儀、ルールや約束・マナーを理解、模範となる行動をとることができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 原因を見つけ、不安を取り除き、自力で対処方法を考え的確に取り組むことができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲の立場に立って、自覚と責任をもって行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 30 | | 20 | 50 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | 5 | | | | | 25 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 5 | 10 | | | | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 5 | 10 | | | | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | 20 | | | | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>各回の授業内で講義・実習を実施。自考力、支援の技術を高め、磨き続けること。 コミュニケーション・ワーク、アイスブレイキングの理解と把握、普及と推進。 支援活動の安全管理、心身の健康、体調の自己管理のプレゼン実施。</p> | | | | | <p>レクリエーションの支援の方法、組み立ての理解と把握。 「仲間・健康・笑顔・元気づくり」への道標の理解度。 種目の概要と特性、学修プリント、授業内・授業外を問わず確認し、整理保存と復習を すること。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|----------------------------|----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①レクリエーション、スポーツ、健康 ②看護との関連 | 講義：面接授業 レポート作成 | レクリエーションとは | 90 |
| 第2回 / | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②ドッチビー | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第3回 / | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②ドッチボール | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第4回 / | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②フライングディスク 1 | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第5回 / | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②フライングディスク 2 | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第6回 / | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②バドミントン1 | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第7回 / | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②バドミントン2 | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第8回 | レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②インディアカ | 実技 レポート作成 面接授業 | 概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第9回 | 指導案の作成方法 | 講義：面接授業 | 導入・展開・まとめの記入方法 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第10回 | 指導案の作成 | 講義：面接授業 | グループに分かれて指導案を作成 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第11回 / | 指導案に沿った指導体験 1 | 実技 レポート作成 面接授業 | レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第12回 / | 指導案に沿った指導体験 2 | 実技 レポート作成 面接授業 | レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第13回 / | 指導案に沿った指導体験 3 | 実技 レポート作成 面接授業 | レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築 | 90 |
| 第14回 / | 指導案に沿った指導体験 4 まとめ | 実技 レポート作成 講義 面接授業 | レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築 まとめ | 90 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|----------------------------------|---|-----|------|------|------|---------------|
| LLH31S014S | 総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー | スポーツ特別実技 Special、Skill Practices in Physical Education | 1単位 | 選 択 | 実 技 | 1年次 | 春学期 （集中講義） |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 自然を活用した野外での集団生活を通して野外活動の特性を理解し、その知識と技能を習得すると共に、強健な心身を養い、自然に親しむ態度を育て、また、自然の大切さや自己の体力・技術・経験に応じて周到な立案計画をたてる能力を養うことを目的とする。 | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | | |
|-------|-------------|--------|--|--|--|--|--|
| キーワード | スキー 野外活動 | 学修教育目標 | 生涯スポーツとして取り組み、野外活動の重要性・必要性について、安全性・楽しみ、その意義と特性を理解することができる。また社会との関連について考えることができる。 | | | | |
|-------|-------------|--------|--|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 自然を活用したスポーツ（スキー）を通して、スポーツが果たす社会的な役割を理解し、スキー技能検定を通して本番に強い精神力を身に着ける。自然を理解し見合った行動計画を立て実践できる能力を養う。 | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|--|
| スキー用語、スキー技能、安全 | | | | | | | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|--|

| 教 科 書 | | | | 参考書・リザーブドブック | | | |
|-------|--|--|--|--------------|--|--|--|
| なし | | | | なし | | | |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 運動が健康に及ぼす影響を理解できる。 | ◎ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | スポーツ場面での応急処置を理解することができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 他者と協力してスキルの向上を図る事ができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | スキル向上に必要な日々の目標を設定し実行することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | スキルレベルを客観的に判断し、改善向上を図ることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けて、計画的に行動することができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 自然を理解し、日常生活では味わえない状況で創意工夫ができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 指導員や他者の意見を聞き、自分のみならずグループのスキルアップに活かすことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 立場の違いを理解し最善の結果が出るように努力することができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | グループにおける役割を理解し他者と連携して物事を進めることができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | ゲレンデにおけるルールやマナーを遵守することができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会としてとらえ前向きに行動できる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他者の立場に立って行動できる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------------|------|----|------|--------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 自然の中で行うスポーツの特性を理解し、スキーのレベルを上げ検定に合格する。 | | | | | スキー検定4級合格 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|---|---|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | スキー実習 ・全日本スキー連盟検定を受講し合格を目指す ・スキースクールに入校し技術の習得 ・毎回実習日誌を記入する ・実習を通して、スキーの特性を理解、技術の習得、冬山について理解、ゲレンデでのマナー、スキー生活マネジメントを習得 実習内容 第1日目 開講式及び研修、出発 | 基礎技能の習得（ブレーク） 講義形式（面接授業） 実習日誌 | ・スキーの基礎技能を学修しておく ・スキーの安全対策を学修しておく ・実習1日目の課題発見と解決策を考える | 60 |
| 第2回 / | 第2日目 スキー講習及び研修 | 基礎技能の習得（ブレークボーゲン、シュテム） 講義形式（面接授業） 実習日誌 | ・実習2日目の課題発見と解決策を考える | 60 |
| 第3回 / | 第3日目 スキー講習及び研修 | 基礎技能の習得（ブレークボーゲン、シュテム、パラレル） 講義形式（面接授業） 実習日誌 | ・実習3日目の課題発見と解決策を考える ・スキー検定合格に向けた課題解決をイメージする | 60 |
| 第4回 / | 第4日目 スキー講習及び検定、研修、出発 | スキー検定 講義形式（面接授業） 実習日誌 | ・実習4日目の課題発見と解決策を考える | 60 |
| 第5回 / | 第5日目 閉講式、解散 場所：長野県白馬八方尾根（予定） 期間：4泊5日（車中2泊） | 講義形式（面接授業） 実習日誌 | ・実習を通じて得た資質を考える | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLB31S015S | 総合教養科目 基本教養科目 | 表現入門 Introduction to Japanese Expression | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|-------------|
| 学修教育目的 | <p>国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等敬語表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。</p> | |
| | キーワード | <p>国語常識</p> |

学修教育目標

学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし

教科書

参考書・リザーブブック

書名：キャリアアップ国語表現法 21 訂版
著者名：丸山 顕徳、その他
出版社：嵯峨野書院

なし

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|---|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 発信力をつけたり、問題解決能力など社会で必要な基本的な力を養う。 | △ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 実際に解答を板書して他者の同意を求める。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--------------|------|----|------|----------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 59 | | | 35 | | | 6 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | | 30 | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 9 | | | | | | | 9 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | 6 | 6 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | | 5 | | | | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 国語常識として必要な殆どすべての知識を身につけることができた。 | | | | | 国語常識としてよく使われる知識については修得できた。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|--------------------------------------|--|----------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 面接授業・ 授業ガイダンス 就職試験（国語常識）との関係。 | 面接授業・講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習 | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第2回 / | 教科書の第3課「同訓異義語」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第3回 / | 教科書の第4課「音訓と熟語」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第4回 / | 教科書の第5課「熟語の構造」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第5回 / | 面接授業・第3課、4課、第5課の解答合わせと教科書の第6課「四字熟語」の問題 | 面接授業・教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第6回 / | 教科書の第7課「仮名遣いと送り仮名」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第7回 / | 教科書の第13課「レトリック」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第8回 / | 教科書の第14課「慣用表現の誤用」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第9回 / | 面接授業・第7課、第13課、第14課の解答合わせと教科書の第26課「待遇表現①」の問題 | 面接授業・教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | | | | |
| 第10回 / | 教科書の第27課「待遇表現②」の問題を | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第11回 / | 教科書の第28課「接客・電話の対応」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第12回 / | 教科書の第8課「文のしくみ」の問題 | 課題学習。教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第13回 / | 面接授業・第27課、第28課、第8課の解答合わせと第9課「文章構成」の「基本問題」のみ | 面接授業・教科書の問題演習をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | 問題演習 | | | |
| 第14回 / | 面接授業・提出物を確認し、質問を受けプリントの問題をする | 面接授業・プリントの問題をする | ・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習 | 予習 30 復習 30 |
| | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLB31S016S | 総合教養科目 基本教養科目 | 倫理学 Ethics (Introduction to Humanity) | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--|
| 学修教育目的 | (人倫思想概論) 倫理学は、道徳の本質、人間行為の善悪の標準、人間関係の正しいあり方などについて研究する学問である。それは人生観・世界観にかかわる内容をもつ。ゆえに、ここで西洋の考え方、東洋の考え方、日本の考え方、それに現代の思想を主な研究領域として先哲の考え方についてその時代的背景との結びつきのなかで人間性の本質を認識し、すぐれた先人の人生観・世界観について考え、さらに現代社会における人間関係について理解することを通じて「人間いかに生きるべきか」ということを考える。 | |
| | 道徳の本質 人間行為の善悪の標準 人間関係の正しいあり方 徳育教育 規範倫理学、応用倫理学 人生観・世界観 | 学修教育目標 すぐれた先人の人生観・世界観について考え、現代社会における人間関係について理解することを通じて、「人間いかに生きるべきか」ということを考えることができる。倫理学の知識が日常生活で、どのように役立つのか、またどのように実践できるのかが徳育教育の要になる。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

本講座は、現代社会における「人間の自己疎外」の進行するなかで人は「どのように現代社会に生きるべきかを自主的に考えていこうとする意欲を高める」ことが最も必要であり、しかも道徳的判断力とその基盤をなす倫理的な精神が人生において最も高貴なものであることを先哲の人生観・世界観について学修することによって、自らの人生についての考え方をつくりあげる土台とする。学修に際しては、思想の歴史の変遷や特徴、思想家の生涯などを調べるために参考書、事典、伝記、歴史年表などの資料を参考にするとよい。

- ・講義形式：パワーポイント、プリントを用いて内容の説明を行い、それぞれの実例を各自考えながら進めていく。
- ・毎時間授業で、倫理的な実例を挙げ、個人およびグループで考え討論していく。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|---|--|
| 書名：フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる倫理学 著者名：田上孝一 出版社：日本実業出版社 | 書名：学びなおすと倫理は面白い 著者名：村中和之 出版社：ベレ出版 書名：ふだんづかひの倫理学 著者名：平尾昌宏 出版社：晶文社 書名：理系の学生と学ぶ倫理 著者名：上杉敬子 出版社：晃洋書房 |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|---------------------------|---|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする倫理学実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する倫理学実践 | 「人間いかに生きるべきか」ということを考えながら人間力を高めていく。 | △ |
| ③ | 多様な場で、継続的な倫理学の知識を提供、実践できる | 倫理学の知識を役立て、実践していき、倫理規範に具体性をもたせることが徳育教育につながる | ○ |
| ④ | 環境に対する倫理規範の実践 | 人間中心の考え方から人間を含む自然全体を価値の基本単位とみなす新しい倫理感を達成していく。 | ○ |
| ⑤ | 倫理規範の実践を通して行う徳育教育 | 実際の日常生活でどう実践できるかという点を重視し、倫理規範に具体性をもたせることが徳育教育の要になる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 問題発見力 | 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 30 | 20 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | 20 | 8 | | | | 48 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 4 | 4 | | | | 18 |
| | チームワークに関する評価 | | 10 | | 3 | 4 | | | | 17 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | 3 | 4 | | | | 17 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 現代社会における人間関係について理解することを通じて、「人間いかに生きるべきか」、「人命の尊重と人間性をいかに高めるか」ということを考えることができる。 | | | | | 現代社会における人間関係について理解することを通じて、「人間いかに生きるべきか」、「人命の尊重と人間性をいかに高めるか」ということを考えることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|-------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス ●倫理学の基礎知識 ① 倫理の基礎 ② 倫理学総論 ③ 倫理学の分類 | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第2回 / | ●倫理とは何か (1) | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第3回 / | ●倫理とは何か (2) | レポート課題 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第4回 / | ●倫理とは何か (3) ① 倫理学とは哲学なのか？ ① 倫理は物事を見定める「ものさし」となる。 レポート課題 | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第5回 / | ●正義が絶対に正しいことはあるのか？ 様々な人がいるなかで倫理をどう考えるべきか？ | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第6回 / | ●ソクラテス(無知の知)、プラトン(イデア、エロス) アリストテレス(メソテース：中庸) コミュニタリアニズム、リベタリアニズム | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第7回 / | ●倫理学と人生 (1) ① 倫理は一生つきまとう。 | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第8回 / | ●倫理学と人生 (2) ② 倫理は一生つきまとう。 | 面接授業、討論 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第9回 / | ●学習課題に対する発表・討論 (1) | レポート課題 面接授業、討論 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第10回 / | ●学習課題に対する発表・討論 (2) | レポート課題 面接授業、討論 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第11回 / | ●人間と環境 (1) ヒューマニズム(人間主義)とは何か？ | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第12回 / | ●人間と環境 (2) 「自然」を中心とした倫理学とは？ | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第13回 / | ●倫理と社会 倫理を通じて社会のルールを考えよう。 | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |
| 第14回 / | ●まとめ 倫理学の基礎知識等をまとめる。 | 面接授業 | 授業内容の復習 | 120 |

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| LLB32S017S | 総合教養科目 基本教養科目 | 暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--|
| 学修教育目的 | <p>本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。</p> | |
| | <p>最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治</p> | <p>学修教育目標</p> <p>本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。 また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するのかも国際・国内を越えて考えることができる。</p> |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実に即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|--|
| <p>実質的な講義が始まる前に、できる限り憲法前文を読んでおくこと。憲法条文についてはIT等を活用して自ら資料収集すること。講義の前には関連する条文を読んでおくこと、また常に今現代の社会に目向けるため、新聞やテレビ等の時事にも興味と関心を持つように心がけましょう。</p> |
|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|---|-------------------------|
| <p>書名：はじめての憲法学 第2版 著者名：中村 睦夫 編著 出版社：三省堂</p> | <p>講義の際に必要な応じて紹介する。</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 法に基づく基本的人権を知る。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 福祉国家理念に基づく制約を知る。 | ○ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 最高法規を理解し、社会の諸問題に関心をもち様々な課題や試験に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | 自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 法治国家の一員としての責任ある行動がとれるよう人格形成ができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 人権に沿った社会人としての自覚が持てる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 59 | | | | | | 41 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | | | 20 | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | | | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 19 | | | | | | 21 | 40 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また裁判員制度・18歳選挙権なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。</p> <p>各項目の理解度が80%であること。</p> | | | | | <p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また裁判員制度・18歳選挙権なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。</p> <p>各項目の理解度が60%～80%であること。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---------------------------------|------------|----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 憲法を学ぶ ・憲法の意義、学び方 ・成績評価方法等 | 講義形式（面接授業） | 憲法について予習すること | 30 |
| 第2回 / | 国際協調主義 ・周辺諸国との領土問題 ・自衛権 | 講義形式（面接授業） | 国際協調主義について予習すること | 30 |
| 第3回 / | 憲法改正問題 ・憲法9条を中心とする憲法改正論議 | 講義形式（面接授業） | 憲法改正問題について予習すること | 30 |
| 第4回 / | 平和と憲法 ・憲法9条の平和主義 ・国際協調主義 | 講義形式（面接授業） | 国際協調主義について予習すること | 30 |
| 第5回 / | 政治と憲法 ・政治のあり方（三権分立・議院内閣制等） | 講義形式（面接授業） | 三権分立・議院内閣制について予習すること | 30 |
| 第6回 / | 経済と憲法 ・資本主義経済と制度的保障 | 講義形式（面接授業） | 資本主義経済について予習すること | 30 |
| 第7回 / | 税金と憲法 ・納税の義務と租税法律主義 | 講義形式（面接授業） | 納税の義務について予習すること | 30 |
| 第8回 / | 社会保障と憲法 ・生存権的基本権（生活保護など） | 講義形式（面接授業） | 社会保障について予習すること | 30 |
| 第9回 / | 報道と憲法 ・表現の自由・知る権利・報道の自由 | 講義形式（面接授業） | 表現の自由・知る権利・報道の自由について予習すること | 30 |
| 第10回 / | プライバシーと憲法 ・個人のプライバシー権と個人情報保護 | 講義形式（面接授業） | プライバシー権について予習すること | 30 |
| 第11回 / | 刑事訴訟と憲法 ・奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利 | 講義形式（面接授業） | 刑事訴訟について予習すること | 30 |
| 第12回 / | 裁判所と憲法 ・法令審査権と三審制 ・裁判員制度 | 講義形式（面接授業） | 裁判所について予習すること | 30 |
| 第13回 / | 地方自治法と憲法 ・地方自治制度と地方分権 | 講義形式（面接授業） | 地方自治について予習すること | 30 |
| 第14回 / | まとめ（1） （第1回からの内容のまとめを行う） | 講義形式（面接授業） | これまでの授業の内容について復習すること | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|--------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLB31S018S | 総合教養科目 基本教養科目 | メンタリング論（自律型人材育成論） Mentoring | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|---|
| 学修教育目的 | <p>メンタリングとは人生経験の豊かな人々が、支援を必要としている人々に対して行う支援である。人生のある場面においては教え手となり、またある場面には助けてとなり、また他の場面では心の支え手となって、継続して行う支援活動全体をいうが、看護師としての感性の成長をめざす。</p> |
|--------|---|

| | | | |
|-------|------------------|--------|--|
| キーワード | メンター、メンティー、コーチング | 学修教育目標 | <p>日本の組織（学校、自治体、病院・・・）でも、最近コーチングがブームになっているが、これだけでは十分な成果が得られず、福祉医療の観点からメンタリングの講義を進めるが、看護師としての精神的に自立でき有効な患者サービスができること。</p> |
|-------|------------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| <p>将来看護師になった時に、患者さんに対して如何にして精神的なサポートが出来るかが極めて大事である。単に知識を暗記するだけでなく、メンタリングの精神を理解すること。</p> |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|--------------------|
| <p>コーチングに関する知識</p> |
|--------------------|

教 科 書

参考書・リザーブドブック

| | |
|----|--|
| なし | <p>書 名：ビジネスコーチング入門 著者名：石川 洋・本田 勝嗣 出版社：日本能率協会マネジメントセンター</p> |
|----|--|

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-----------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 家族内でもメンタリングを行えるか。 | ○ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 年上の人に対してメンターとメンティーの関係を築くこと。 | ○ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 看護師になったときに積極的に患者さんにメンタリングができること。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | グループワークで友人をリードする。 | ○ |
| | ③ 実行力 | あいさつを毎回実行する。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 問題発見力 | 患者さんの精神的な悩みを感知できること。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | △ |
| | ② 傾聴力 | 困った人を助ける。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | △ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | 社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 15回休まずに出席する。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 看護師としての規律を守る。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 58 | | | 42 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | | 15 | | | | 45 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 7 | | | | 7 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 18 | | | 10 | | | | 28 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>将来看護師として、患者さんに理想的なメンタリングが実施できること。</p> | | | | | <p>将来看護師として、患者さんに標準的なメンタリングが実施できること。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--------------------|---------------|-------------------------------|----------------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス | 面接授業 | 予習：メンタリングについて、復習：演習の課題でまとめたこと | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第2回 / | 5つの人間力とメンタリング | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第3回 / | メンターとは | 面接授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第4回 / | メンタリングの基本3形態 | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第5回 / | メンタリング・プログラム | 面接授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第6回 / | キャリアプラン | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第7回 / | これから問われる人間力 | 面接授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | | | | |
| 第8回 / | 福祉とメンタリング (1) | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第9回 / | 福祉とメンタリング (2) | 面接授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第10回 / | コーチングとは | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第11回 / | 優秀な人材を育てるコーチング | 面接授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第12回 / | コーチングの基本スキル | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第13回 / | コーチング実践スキル | 面接授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |
| 第14回 / | 優れたコーチング | オンデマンドによる遠隔授業 | 予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題 | 予習：30 復習：30 |
| | 演習参加態度 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLB31F019S | 総合教養科目 基本教養科目 | 茶道と心 Tea Ceremony and Japanese Culture | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | | |
|--------|--|------------------------------------|--------|-------------------|--|--|--|
| 学修教育目的 | (1) 裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 (2) 日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。 | | | | | | |
| | キーワード | 伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心 | 学修教育目標 | 「初級」の資格の許状を申請できる。 | | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|
| 日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。 | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| 学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。 | | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|

教科書

参考書・リザーブドブック

| | | | | | | | |
|----|--|--|--|--|--|--|--|
| なし | | | | 書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵 | | | |
|----|--|--|--|--|--|--|--|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | 相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 日常生活でのルールやマナーを理解できる。 | ◎ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 常に感謝の心を持ち、物に動じない精神力を育むことができる。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 患者の気持ちを思いやることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 患者のことを理解し、よりよい行動ができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 患者の状態を正確に理解し、明らかにできる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手の気持ちや助言を最後までしっかり聞くことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分のおかれている立場を把握し行動できる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 5 | 20 | 20 | | | 5 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 10 | 1 | 10 | | | | 1 | 22 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | 1 | | 10 | | | 1 | 22 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 1 | | | | | 1 | 12 |
| | チームワークに関する評価 | | 10 | 1 | | | | | 1 | 12 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | 1 | 10 | 10 | | | 1 | 32 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>茶道の基本精神「和敬清寂」を十分理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。</p> | | | | | <p>茶道の基本精神「和敬清寂」をほぼ理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 茶道と伝統文化について総論 ①学生への注意 ②呈茶（自分で茶をたてて飲む） | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第2回 / | 客の作法について（茶・菓子）帛紗の説明 ①おじぎ ②立居振舞 ③呈茶 | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第3回 / | 基本的な茶道具の説明 ①帛紗の扱い方 ②呈茶 | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第4回 / | 茶道の意義 ー茶道と日常生活ー ①棗・茶杓の清め方 ②呈茶 | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第5回 / | 茶の精神 ー和敬清寂・利休七則ー ①茶筴・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶 | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第6回 / | 茶の歴史 ー茶の伝来から鎌倉時代ー ①割稽古総まとめ ②呈茶 小テスト | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第7回 / | レポート課題出題 茶の歴史 ー足利時代ー ①盆略点前 (1) | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第8回 / | 茶の歴史 ー利休と安土桃山時代ー ①盆略点前 (2) | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第9回 / | レポート提出 ーレポート課題の解説ー 茶道の成立 ①盆略点前 (3) | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第10回 / | 現代の茶道 ①盆略点前 (4) | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第11回 / | 茶と禅 ①盆略点前 (5) | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第12回 / | 茶と季節観 ①盆略点前の総まとめ | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第13回 / | 総まとめ ー茶道と伝統文化ー ①茶会形式 ②盆略点前のまとめ | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |
| 第14回 / | ①実技試験（盆略点前） | 講義 実習 面接授業 | 日常生活での学修内容の実践 | 20 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLB32S020S | 総合教養科目 基本教養科目 | ケアワーカーとしての人間形成 Character Building as a Care Worker | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|----------------------------|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>現代、100年時代の高齢化社会を迎え、看護に関する重要性は、ますます高度化している。その職務に携わる優れた人材の育成は不可欠であり、キャリア教育の視点に立って、看護活動に対応できる人間形成が求められる。</p> <p>本講では、その趣旨を踏まえ、自己教育力の育成を基礎・基本として「人間の生き方・倫理感」や「職業観・勤労観」などのより一層の職業能力を伸長させるべく講義を目的としている。</p> |
|----------------------------|--|

| | | | |
|-----------------------|--|----------------------------|--|
| キ ー ワ ー ド | <p>「人間力を磨く」！！ 人間に最も重要な「仁・義・礼・智・信」の5つの徳への修養</p> | 学 修 教 育 目 標 | <p>ケアワーカーとして、最も求められる「思いやり・仁愛に満ちた義の精神」の高揚を目指し、コミュニケーション能力（ビジネスマナー・洞察力など）の実践指導も図り、心の充実に向けて人間力を磨くことにある。</p> |
|-----------------------|--|----------------------------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

授業計画表に基づき、当初は人間の生き方、偉人達の名言、人生訓などを基礎基本に社会人として働くことの意義、職業人の心得、仕事の上手な進め方、職場の人間関係、上手な話し方・聞き方、自己啓発のすすめ、スランプの対処法、期待される人間像など「人間力を磨く」ことが必須条件と思考される。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目とも関連があり、「心の教育」「道徳・倫理」などを含めて、総合教養として不可欠な科目であるため、大局的な立場から必須の科目である。
※諺：「森を見て木を見る」に相応しい科目である。

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|--|--|
| <p>書 名：経営革新時代の新ビジネスマンの基礎知識 第4版 著者名：松原 勇 出版社：(株)ぎょうせい</p> | <p>書 名：修養訓 著者名：藤尾 秀昭 出版社：到知出版社</p> |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | どのような患者に対しても平等な立ち振る舞い（笑顔・言葉使い・思いやりなど）ができる看護師を目指してほしい。看護師としての確固たる使命感をこの講義で修得して、将来患者から尊敬・信頼される、心豊かな人間形成に努める。 | ◎ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | どのような患者に対しても平等な立ち振る舞い（笑顔・言葉使い・思いやりなど）ができる看護師を目指してほしい。看護師としての確固たる使命感をこの講義で修得して、将来患者から尊敬・信頼される、心豊かな人間形成に努める。 | ◎ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | どのような患者に対しても平等な立ち振る舞い（笑顔・言葉使い・思いやりなど）ができる看護師を目指してほしい。看護師としての確固たる使命感をこの講義で修得して、将来患者から尊敬・信頼される、心豊かな人間形成に努める。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | どのような患者に対しても平等な立ち振る舞い（笑顔・言葉使い・思いやりなど）ができる看護師を目指してほしい。看護師としての確固たる使命感をこの講義で修得して、将来患者から尊敬・信頼される、心豊かな人間形成に努める。 | ◎ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | どのような患者に対しても平等な立ち振る舞い（笑顔・言葉使い・思いやりなど）ができる看護師を目指してほしい。看護師としての確固たる使命感をこの講義で修得して、将来患者から尊敬・信頼される、心豊かな人間形成に努める。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業環境を良くするため、教室内の整理整頓、黒板が消されているか。カーテンが開いて明るい雰囲気になっているか。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 授業環境を良くするため、教室内の整理整頓、黒板が消されているか。カーテンが開いて明るい雰囲気になっているか。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 授業環境を良くするため、教室内の整理整頓、黒板が消されているか。カーテンが開いて明るい雰囲気になっているか。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 諺に「仏つくって魂入れず」は現状の姿、経営の核心ノウハウの「PDCAの原則」をよく理解させる。効果的に発揮できる力が身につく。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 諺に「仏つくって魂入れず」は現状の姿、経営の核心ノウハウの「PDCAの原則」をよく理解させる。効果的に発揮できる力が身につく。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 諺に「仏つくって魂入れず」は現状の姿、経営の核心ノウハウの「PDCAの原則」をよく理解させる。効果的に発揮できる力が身につく。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 本講座は「チームワーク制」を採用しており、社会人としての準備又協調性もはぐくまれ、積極的に何事も進めて行く力を養う。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 本講座は「チームワーク制」を採用しており、社会人としての準備又協調性もはぐくまれ、積極的に何事も進めて行く力を養う。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 本講座は「チームワーク制」を採用しており、社会人としての準備又協調性もはぐくまれ、積極的に何事も進めて行く力を養う。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 本講座は「チームワーク制」を採用しており、社会人としての準備又協調性もはぐくまれ、積極的に何事も進めて行く力を養う。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 本講座は「チームワーク制」を採用しており、社会人としての準備又協調性もはぐくまれ、積極的に何事も進めて行く力を養う。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 本講座は「チームワーク制」を採用しており、社会人としての準備又協調性もはぐくまれ、積極的に何事も進めて行く力を養う。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 「人間力を高める」心の教育が人間の「核」。(真・善・美) | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身につく ○:通常状況で発揮する力が身につく △:身につくことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------|------|----|------|---------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 10 | 20 | 10 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | 10 | 20 | 10 | | | 10 | 100 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| シラバスのキーワードに基づき、達成できたかどうか発表させる。 | | | | | 学生の姿勢・態度などの向上が意欲的に進められたか。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-------|--|---|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 | ◎講義の始めに 毎週講義の前半（約30分）に人間形成に役立つホットな時事問題、人間の生き方、偉人達の名言・人生訓など講義する。併せて実学も適宜実施（人間力を磨く） | 本講義はリーダー制採用 リーダー（1名） 副リーダー（2名）} により構成 講義のはじめに！！ リーダーの大きな発声 ①起立（「お願いします」の礼により指導の高揚） ②点呼 ③イメージトレーニング 静かな雰囲気の中講義開始！！ 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第2回 | 働くことの意義 1 何のために働くのか 2 自己実現のため など | 本講義はリーダー制採用 リーダー（1名） 副リーダー（2名）} により構成 講義のはじめに！！ リーダーの大きな発声 ①起立（「お願いします」の礼により指導の高揚） ②点呼 ③イメージトレーニング 静かな雰囲気の中講義開始！！ 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第3回 | 学生生活と社会生活の相違 1 集団の人間関係が違う 2 厳しい制約がある など | 本講義はリーダー制採用 リーダー（1名） 副リーダー（2名）} により構成 講義のはじめに！！ リーダーの大きな発声 ①起立（「お願いします」の礼により指導の高揚） ②点呼 ③イメージトレーニング 静かな雰囲気の中講義開始！！ 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第4回 | 職業人の心得 1 アクション・プログラムを身につける 2 自覚と責任をもつ | 本講義はリーダー制採用 リーダー（1名） 副リーダー（2名）} により構成 講義のはじめに！！ リーダーの大きな発声 ①起立（「お願いします」の礼により指導の高揚） ②点呼 ③イメージトレーニング 静かな雰囲気の中講義開始！！ 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第5回 | 職業人の心得 3 チームワークの大切さを知る。 4 人生すべからく「青春の心」で全力を尽くす など | 毎時「キーワード」を書いた用紙（かきぞめ半紙）を黒板に貼付して、それに基づいて説明を加え、その後学生全員が大きな声で「素読」（そどく）を進め、要点筆記の上、一層の理解を深める。 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第6回 | 仕事の上手な進め方 1 仕事に取り組む姿勢 2 命令の受け方・報告の仕方 など | 毎時「キーワード」を書いた用紙（かきぞめ半紙）を黒板に貼付して、それに基づいて説明を加え、その後学生全員が大きな声で「素読」（そどく）を進め、要点筆記の上、一層の理解を深める。 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第7回 | 電話の取り扱い方 1 電話対応の心得 2 電話の正しい掛け方・受け方 など | 毎時「キーワード」を書いた用紙（かきぞめ半紙）を黒板に貼付して、それに基づいて説明を加え、その後学生全員が大きな声で「素読」（そどく）を進め、要点筆記の上、一層の理解を深める。 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第8回 | 職場の人間関係 1 よりよい人間関係の基本 2 職場の人々との接し方 3 エチケット・マナー など | 毎時「キーワード」を書いた用紙（かきぞめ半紙）を黒板に貼付して、それに基づいて説明を加え、その後学生全員が大きな声で「素読」（そどく）を進め、要点筆記の上、一層の理解を深める。 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第9回 | 職場の人間関係 1 よりよい人間関係の基本 2 職場の人々との接し方 3 エチケット・マナー など | ◎効果的に発揮できる力が身につく！！ （※効果抜群） 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |
| 第10回 | 上手な話し方・聞き方 1 話し方・聞き方の基本 2 敬語の正しい使い方 など | 講義・実践力が身につく 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| / | 講義終了前に感想文を提出 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第11回 / | 上手な話し方・聞き方 3 上手な話し方のコツ 4 上手な聞き方のコツ など 講義終了前に感想文を提出 | 講義・実践力が身につく 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| 第12回 / | 自己啓発のすすめ 1 脳力開発をする 2 マイペースで努力する など 講義終了前に感想文を提出 | 講義・実践力が身につく 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| 第13回 / | スランプの対処法 1 バイオリズムを知る 2 スランプの解消法を知る など 講義終了前に感想文を提出 | 講義・実践力が身につく 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |
| 第14回 / | 期待される人間像 1 一期一会の気持ちで人脈をつくる 2 「やる気」「根気」「負けん気」 など まとめ「人間力を磨く」要点 講義終了前に感想文を提出 | 講義・実践力が身につく 面接授業 | ノート提出のための予習・復習をする。 | 90 |

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|------------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLB11S021S | 総合教養科目 基本教養科目 | 人間の心 Introduction to Psychology | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--|
| 学修教育目的 | 人間の心においては、まず心理学の全体像をつかむことを目的とする。心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。心の発達、感覚や知覚、脳の働きや心と身体との関連、さらにパーソナリティや深層心理まで、枚挙にいとまがないほど心理学の領域は広範囲にわたっている。人間の心は、看護師・保健師・養護教諭を目指す学生の基本教養科目となるものである。 | |
| | 心理学 心と身体 自己理解・他者理解 | 学修教育目標 ・人間の心と身体がいかに密接に関連しているかを含めて、人間の心理的側面に関する理解を深めることができる。 ・よりよい看護を実現するために、看護の医療現場においても、心理学の基礎知識は不可欠である。本科目の学びをとおして、自己理解・他者（患者）理解・洞察力を深め、看護の仕事に活用できる知見を身につけることができる。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| 心理学の基礎的な理論・知識を学修し、心と身体の結びつきについて考える。 配布資料に従い、主として講義形式でスライドを用いて授業を進める。 配布資料はあくまで要点のみ記載しているものなので、講義内容について重要だと感じた部分は必ず各自ノートを取ること。 |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|-------------------------|
| 心理学領域の他科目を理解するための基礎になる。 |
|-------------------------|

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|----|--|
| なし | 書名：はじめて出会う心理学 第3版 著者名：長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 直行 出版社：有斐閣アルマ |
|----|--|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|---------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | あらゆる年代の人の心を理解することができる。 | ◎ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | 不健康とは何かを理解することができる。 | ○ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 心と身体の密接な結びつきを理解して予防に役立てることができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 進んで学習を深めることができる。 | △ |
| | ② 働きかけ力 | 他者から助言を引き出すことができる。 | △ |
| | ③ 実行力 | 各自目標を設定し実行することができる。 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | わかることわからないことを明確にして課題に取り組むことができる。 | △ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けて具体的な方法を考えることができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 知識を生かし看護の具体的な場面での利用方法を考えることができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を論理的に整理し伝えることができる。 | △ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聴き理解することができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えにとらわれず相手の意見を聞くことができる。 | △ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し自分の果たすべき役割を把握できる。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | マナーやルールの必要性を理解し守ることができる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 強いストレス状況を作らないような人間関係の維持や適切な対処を行うことができる。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立ち集団内の適切な行動をとることができる。 | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|---------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | | | | 50 | 100 |
| 評価 の 指 標 | 知識に関する評価 | | 50 | | | | | | 15 | 65 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | 0 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| | チームワーク力に関する評価 | | | | | | | | | 0 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 20 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>人の心を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。 基礎的な理論や知識をさらに深く理解することで主体的に活用できる。 どのように活用するかを他者に論理的に説明することができる。</p> | | | | | <p>人の心を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。 基礎的な理論や知識をさらに深く理解することで主体的に活用できる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|--------------------------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 人間の心（心理学）を学ぶにあたって | ・講義 (面接授業) | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 30 |
| 第2回 / | 心理学とは 心理学の領域、心理学の研究手法 ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第3回 / | 感覚と知覚 感覚の性質、形・奥行き・動きの知覚、知覚の恒常性 ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第4回 / | 記憶 記憶の過程、感覚記憶、記憶の種類、知識とスキーマ ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第5回 / | 学習 学習とは何か、古典的条件づけ・オペラント条件づけ ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第6回 / | こころの発達（1） 乳幼児期の心理、発達障害 ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第7回 / | こころの発達（2） エリクソンの発達段階説、高齢者の心理、認知症 ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第8回 / | 動機づけと情動 動機づけとは、情動とは ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第9回 / | パーソナリティと知能 パーソナリティとは、性格検査、知能の定義、知能検査 ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第10回 / | 社会のなかの人 他者による影響と他者の認知、協調と信頼 ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第11回 / | ストレスと心の危機 ストレス、心理病理はなぜ起こるか ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第12回 / | 脳機能障害と心の働き（1） 失行・失認等、高次脳機能障害の症例に学ぶ ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第13回 / | 脳機能障害と心の働き（2） 心理病理、認知症、意識障害等の症例に学ぶ ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | ・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入） | 60 |
| 第14回 / | まとめ この科目で学んだことを将来の看護場面でどのように活かしていくか ・コメントシート | ・講義 (オンデマンドによる遠隔授業) ・コメントシート記入 | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|--------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| LLB31S022S | 総合教養科目 基本教養科目 | 暮らしと化学 Living and Chemistry | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|-----------------------|
| 学修教育目的 | 日常生活の中で無意識に接する「化学」に焦点を当て、自然界に存在する化学反応と人間が作り出した物質の変化とを考察する。人類の発展を支える一方で環境破壊を起こす二面性を知り、検証する。現代の便利な食を支える化学物質を通じ、日本人の食のありかたも考察する。 | |
| | キーワード | 自然界の物質循環 日本人の食料と化学 |

学修教育目標

1. 基本的な化学反応式が書けるようになること。
2. 自然界の化学変化、特に光合成と呼吸の関係の理解すること。
3. 日本人の食と化学物質の関係の理解を目指す。

授業科目の概要及び学修上の助言

原則として講義形式で行う。必要に応じて演習を行う。基礎の部分の定着を図るために授業中に小テストを行う。高校で化学を履修していない学生も理解できるように基礎から行うが、指示通りに学修を積み上げて行くことが必要である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

化学を扱う全ての科目の基礎となる。

教科書

書 名：あなたと化学 くらしを支える化学15講
著者名：齋藤勝裕
出版社：(株)裳華房

参考書・リザーブドブック

書 名：身の回りから見た化学の基礎 著者名：芝原寛泰、後藤景子 出版社：(株)化学同人
書 名：身の回りの化学—物質・環境・生命 著者名：大場好弘 出版社：(株)化学同人

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|--|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | △ |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | | △ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | | ○ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | ○ |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 基本的な化学についての理解を深め、身の回りの化学に関する事象に興味、関心を持つことができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-----------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 問題意識を持って積極的に授業に参加できる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 授業への参加だけでなく、試験や課題に備えた授業外での学修ができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 問題発見力 | 与えられたテーマに対してどのように取り組めばよいのか理解できる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 自然界での人間の振る舞いについて倫理観を持って考えることができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | 20 | | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 15 | 5 | | | | 5 | 65 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 5 | 5 | | | | 5 | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 自然界での物質の循環や食糧生産における化学を理解し、自然界での人間のあり方について自分なりの考えを持つことができる。 | | | | | 化学の基本を理解し、普段の生活と関連付けることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|-------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス、 第I部 化学の基礎 第1章 原子と分子が全てをつくる—原子の構造と化学結合— | 面接授業 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第2回 / | 第I部 化学の基礎 第2章 私たちは空気で囲まれている—気体の状態と性質— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第3回 / | 第I部 化学の基礎 第3章 地球は水の惑星—水の特性と物質の状態— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第4回 / | 第I部 化学の基礎 第4章 炭が燃えると熱くなる—化学反応とエネルギー変化— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第5回 / | 第I部 化学の基礎 第5章 元素の80%は金属元素—金属の多彩な性質— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第6回 / | 第I部 化学の基礎 第6章 有機物は炭素でできている—有機化学超入門— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第7回 / | 第I部 化学の基礎 第7章 生命体をつくるもの—生体分子の世界— レポート課題（1） | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第8回 / | 第II部 生活と化学 第8章 シャボン玉のふしぎ—分子膜のはたらき— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第9回 / | 第II部 生活と化学 第9章 私たちの食べているもの—食品の化学— | 面接授業 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第10回 / | 第II部 生活と化学 第10章 毒と薬は同じもの？—医薬品と毒物の化学— ビデオ（薬ってなあに） レポート課題（2） | 面接授業とビデオの視聴 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第11回 / | 第II部 生活と化学 ビデオ（薬ができるまで・創薬ボランティア） 第11章 プラスチックってなんだろう？—高分子の化学— | 面接授業とビデオの視聴 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第12回 / | 第II部 生活と化学 第12章 電気ってなんだろう？—発光と化学エネルギー— 練習問題 | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第13回 / | 第II部 生活と化学 第13章 原子力と電力の関係って？—原子力と放射線の化学— 第14章 家庭は化学実験室—家庭の化学— | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |
| 第14回 / | 第II部 生活と化学 第15章 環境は化学で成り立っている—化学から見た地球環境— 練習問題、まとめ | 面接授業と演習 | 授業内容の復習 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| LLB31F023S | 総合教養科目 基本教養科目 | アロマテラピー（癒しの文化） Aromatherapy（Cultures of Healing） | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--|
| 学修教育目的 | アロマテラピーは植物から得られる精油を用いた芳香療法のことです。ストレスケアに用いられる自然療法の一つです。使用方法としては芳香浴法やトリートメントなどがあり、香りの効果はもちろんタッチケアについても学び、体験していただきます。アロマテラピーを学ぶことで、心も身体も健康で人間関係や自然と調和のとれた生活を目指すものです。 | |
| | アロマテラピー 香り ストレスケア トリートメント | 学修教育目標 かおりの提案が出来る。 日本アロマ環境協会アロマテラピー検定1級合格。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では「香り」を楽しむための知識を習得できます。実際に1授業あたり2～3種類の香りを体験していただきます。香りはイメージを思いうかべながら体験すると記憶に残りやすいです。香りを使って行いたいことなどアイデアを思いついたらすぐにメモし、わからないことがあれば教員に相談してください。
授業内容は計画表を参考に予習をして受講ください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

アロマテラピーの事だけでなく、健康、栄養、環境問題も取り上げます。「公衆衛生学」の理解につながります。

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|---|------------------|
| 書名：Simple Aroma かおりのテキスト（予定） 著者名：町 安弥子 出版社：大阪教育図書出版 | アロマテラピー検定 公式テキスト |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 年代別の注意点を理解している。 | ◎ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | 香りの使い方を選択、提案できる。 | ○ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | 西洋医学、東洋医学、補完代替療法を理解できる。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | △ |
| | ② 働きかけ力 | 協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。 | △ |
| | ③ 実行力 | 目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | クライアントの無言の訴えに素早く気づく。 | ○ |
| | ② 計画力 | 不調を訴える人に対して香りの提案ができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 香りを言語化し表現できる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | △ |
| | ② 傾聴力 | クライアントの希望を的確に捉える。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | △ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | 社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲に対し道徳的に行動できる力 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------|------|----|------|--------------|-----------------|-------------|-------------|-----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (ロムシート等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | 25 | | 20 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | 20 | | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | 5 | | | 10 | | | | 15 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | 5 | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | 5 | | | | | | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 日本アロマ環境協会 アロマセラピー検定1級合格 | | | | | かおりの提案が出来る。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | アロマセラピーの基礎 -アロマセラピーの現状- | 面接授業 講義 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 2~14 ページ | 15 |
| 第2回 / | アロマセラピー基本的な使い方と注意点 実習 アロマセラピートリートメント | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 68~70 ページ | 15 |
| 第3回 / | 精油について (1) -精油の物性- | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 71~73 ページ | 15 |
| 第4回 / | 精油について (2) -精油の作用と抽出方法- | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 74~75 ページ | 15 |
| 第5回 / | アロマセラピーの基材 ・植物油 ・水性基材 ・その他の基材 実習 アロマセラピートリートメント | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 28~29 ページ、76~77 ページ | 15 |
| 第6回 / | アロマセラピーの歴史 (1) -先史時代~古代- | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 78~80 ページ | 15 |
| 第7回 / | アロマセラピーの歴史 (2) -中世~現代- | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 81~85 ページ | 15 |
| 第8回 / | 精油の作用機序 (メカニズム) ・嗅覚 ・皮膚 ・吸入 ・飲用 第1回 小テスト | 面接授業 講義 第1回小テスト | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 86~89 ページ 小テスト範囲 テキスト 68~85 ページ | 90 |
| 第9回 / | 健康学1 -栄養と睡眠- | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 90~91 ページ | 15 |
| 第10回 / | 健康学2 -睡眠、ストレスとメンタルヘルス- | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 92 ページ | 15 |
| 第11回 / | 生活習慣病、ライフステージと健康 実習 アロマセラピートリートメント | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 93~96 ページ | 15 |
| 第12回 / | アロマセラピーに関する法律 実習 アロマセラピートリートメント | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 100~101 ページ | 15 |
| 第13回 / | 日本アロマ環境協会、ホームケア 実習 アロマセラピートリートメント | 面接授業 講義 実習 | 予習 授業内容 テキストを読む テキスト 32~45 ページ、102 ページ | 15 |
| 第14回 / | 総復習 検定試験対策 第2回 小テスト | 面接授業 講義 第2回 小テスト | 小テスト範囲 テキスト 2~131 ページ | 60 |

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| ナンバリング | 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------|------------------|----------------------------|-----|------|------|-------------|-------------|
| LLB11S024S | 総合教養科目 基本教養科目 | アセンブリ・アワー Assembly Hour | 4単位 | 必修 | 演習 | 1年次 ～4年次 | 春学期・ 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|---|
| 学修教育目的 | 心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、将来、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、学修研究に対する具体的な取り組み方、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。 | |
| | 心身の調和 自主的・実践的態度 学生生活 個人・社会の一員としての在り方 | 学修教育目標 個人及び社会の一員としての在り方を理解し、学生生活を充実させ、将来の生き方と進路の適切な選択決定ができる。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

総合教養科目の一つとして位置づけられており、教科目での学修だけでは学べない内容やアセンブリクラスとしての取り組みなどを計画する。国家試験対策や就職に向けての学修、大学祭への取り組み、他学年との交流など多彩な内容が盛り込まれている。積極的に学びましょう。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能については特にありません。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|------------|-------------|
| 資料を適宜配付する。 | 資料を適宜配付する。 |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|-------------------------|-----------------------------------|---|
| ① | 個人—家族集団地域を対象とする看護実践 | | |
| ② | あらゆる年代の人々に対する看護実践 | 多様な視点・他者の価値観を受け入れ、視野を広げることができる。 | ◎ |
| ③ | 多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践 | さまざまな取り組みにおいて、自身の役割を考え行動することができる。 | ◎ |
| ④ | 健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践 | | |
| ⑤ | ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 色々な取り組みに自ら取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 他者に働きかけ、共に行動できるよう努めることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 考えや計画に基づき、行動に起こすことができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | |
| | ② 計画力 | 目標を達成するために必要な計画を立てることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自身の考えを他者に対し、どのように伝えることが効果的かを考え表現することができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 他者の考えや意見に耳を傾けることができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の発する意見についてその意味を考え理解しようと努めることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 話し合いや実際の行動において、周囲に目をやり現状をつかもうと努めることができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | グループ内でのルール、科目における規律を遵守し協力することができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 自身の抱えている不安や疑問をどのようにすれば解決できるのかを考える、または相談できる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|-------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>毎回出席し、各回に計画された課題に積極的に取り組み メンバーとも協力して理解を深めることができている。</p> | | | | | <p>毎回出席し、課題には取り組む姿勢はみられる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|----------------------------|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 詳細は各学年のアセンブリ・アワー計画表を参照のこと。 | | | |
| 第2回 / | | | | |
| 第3回 / | | | | |
| 第4回 / | | | | |
| 第5回 / | | | | |
| 第6回 / | | | | |
| 第7回 / | | | | |
| 第8回 / | | | | |
| 第9回 / | | | | |
| 第10回 / | | | | |
| 第11回 / | | | | |
| 第12回 / | | | | |
| 第13回 / | | | | |
| 第14回 / | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。